

景気動向調査結果

(令和7年4月分)

長野県産業労働部

この調査は、県内企業 700 社（製造業 300 社（うちヒアリング 65 社）、非製造業 400 社（建設業、情報サービス業、小売業、卸売業、飲食業、宿泊業））を対象に、令和 7 年 4 月末の状況（前年同期、3 か月前と比較した状況、3 か月後の状況予想）について、令和 7 年 5 月にヒアリング又は書面により行ったものです。

なお、平成 23 年度の調査から、従来の「製造業」に、「非製造業」（建設業、情報サービス業、小売業、卸売業、飲食業、宿泊業）も加えて実施しています。

また、平成 26 年度の調査から、非製造業の調査対象企業数を従来の 600 社から 400 社に変更し、平成 29 年度の調査から、小売業と卸売業、飲食業と宿泊業を分けて結果を発表しています。

回答企業数は、403 社（製造業 202 社（うちヒアリング 65 社）、非製造業 201 社）で、回答率は 57.6 パーセントでした。

※調査結果の概要は、インターネットで御覧になれます。

<http://www.pref.nagano.lg.jp/sansei/sangyo/shokogyo/toukei/kekka/index.html>

お問い合わせ先：製造業について

長野県産業労働部産業政策課（TEL 026-232-0111 内線 2925）

非製造業について

長野県産業労働部経営・創業支援課（TEL 026-232-0111 内線 2957）

令和7年4月の景気動向

1 総 論

長野県経済は、エネルギー・原材料価格高騰等の影響により依然として厳しい状況が続いているものの、一部で持ち直しの動きがみられます。

製造業の業況は、精密など一部は好調であるものの、長引くエネルギー・原材料価格の高騰等により収益率に低下がみられるとともに、自動車関連の受注、生産が低調に推移していることなどから、全体では12期連続でマイナス水準となりました。

非製造業の業況は、長期的なIT投資の拡大や堅調なインバウンド需要、コロナ禍からの需要回復傾向などにより、情報サービス業、飲食業、宿泊業で業況がプラス水準となっていることや、需要が底堅い食料品を扱う小売業などにおける売上の改善、更には全業種における販売価格の上昇傾向などが見られました。一方で、慢性的な人手不足や一部商品の買い控え傾向から建設業、小売業、卸売業の業況はマイナス水準となりましたが、非製造業全体の業況としては6期ぶりにプラス水準となりました。

2 製 造 業

(1) 業界の業況

前年同期（令和6年4月）と比較したDI（業況が「好転」とする企業の割合から「悪化」とする企業の割合を引いた差）は△16.4となり、前回調査時（令和7年1月）の△15.3より1.1ポイント悪化しました。

3か月前（令和7年1月）と比較したDIは△7.0となり、前回調査時の△18.6より11.6ポイント改善しましたが、14期連続のマイナス水準となりました。

3か月後（令和7年7月）の予想では、DIは△12.5となり、13期連続のマイナス水準となりました。

【主な業種の動き】

ア 電機・電子では、パソコンは、法人向け需要の増加により、受注、生産が好調に推移しています。プリンターは、受注、生産が堅調に推移しています。

半導体関連は、EVを中心とした自動車関連向けでは受注、生産に一服感がみられるほか、スマートフォン、PC向けでは需要回復の遅れにより、受注、生産に足踏みがみられます。抵抗器・コンデンサ等は、自動車関連向けが弱含んでいる一方、情報通信向けと産業用機械向けで受注、生産に持ち直しがみられます。モーター等では、航空機向けは、航空機需要の回復により受注、生産が堅調に推移しています。

イ 一般機械では、工作機械は、半導体向け（生成AI、データセンター）が順調に推移しているものの、全体的には中国経済の減速の影響等により、受注、生産が低調に推移しています。金型は、自動車関連（EV）向けで受注が増加しているものの、米国関税措置等により先行きに不透明感がみられます。建設機械は、海外向けの受注が減少しており、生産、販売が底堅く推移しています。

ウ 精密では、時計は、国内外ともに需要が堅調であり、受注、生産は好調に推移しています。レンズは、映像関連向けの一部で米国関税措置の影響による駆け込み需要が増えているものの、その他は受注、生産が堅調に推移しています。圧力計は、半導体関連の在庫調整等の影響で、受注、生産が弱含んでいます。LPガスメーターは、ガス用IoT関連機器がけん引し、受注、生産が堅調に推移しています。

エ 自動車部品は、一部自動車メーカーの生産の落ち込みは限定的であったものの、受注、生産は低調に推移しているほか、米国関税措置や一部自動車メーカーの経営不振等により、先行きに不透明感がみられます。

オ 味そは、受注、生産が堅調に推移しているものの、原材料価格の高騰等により収益率の低下がみられます。酒類は、酒米高騰の影響に消費マインドの後退も重なり、受注、生産が低調に推移しています。飲料は、季節的要因などにより、受注、生産に回復がみられます。

(2)受注引合

前年同期比では、「増加」とする企業が23.3%と前回(26.9%)より減少し、「減少」とする企業が36.6%と前回(34.5%)より増加した結果、D Iは前回(△7.6)より悪化し、△13.3となりました。

3ヵ月前との比較では、「増加」とする企業が19.4%と前回(14.9%)より増加し、「減少」とする企業が25.4%と前回(35.4%)より減少した結果、D Iは前回(△20.5)より改善し、△6.0となりました。

3ヵ月後の予想については、「増加」とする企業は13.5%、「減少」とする企業が26.5%となった結果、D Iは△13.0となりました。

(3)生産量

前年同期比では、「増加」とする企業が21.8%と前回(24.9%)より減少し、「減少」とする企業が37.1%と前回(37.1%)と同じとなった結果、D Iは前回(△12.2)より悪化し、△15.3となりました。

3ヵ月前との比較では、「増加」とする企業が23.4%と前回(15.9%)より増加し、「減少」とする企業が25.9%と前回(33.8%)より減少した結果、D Iは前回(△17.9)より改善し、△2.5となりました。

3ヵ月後の予想については、「増加」とする企業13.5%、「減少」とする企業が29.5%となった結果、D Iは△16.0となりました。

(4)製品販売価格

前年同期比では、「高い」とする企業が47.5%と前回(41.1%)より増加し、「安い」とする企業が3.0%と前回(6.1%)より減少した結果、D Iは前回(35.0)より改善し、44.5となりました。

3ヵ月前との比較では、「高い」とする企業が18.4%と前回(14.9%)より増加し、「安い」とする企業が3.0%と前回(2.1%)よりやや増加した結果、D Iは前回(12.8)より改善し、15.4となりました。

3ヵ月後の予想については、「高い」とする企業が18.1%、「安い」とする企業が5.0%となった結果、D Iは13.1となりました。

(5)資金繰り

前年同期比では、「らく」とする企業が6.7%と前回(9.4%)より減少し、「苦しい」とする企業が15.9%と前回(15.7%)よりやや増加した結果、D Iは前回(△6.3)より悪化し、△9.2となりました。

3ヵ月前との比較では、「らく」とする企業が6.7%と前回(6.9%)よりやや減少し、「苦しい」とする企業が12.9%と前回(12.7%)よりやや増加した結果、D Iは前回(△5.8)よりやや悪化し、△6.2となりました。

3ヵ月後の予想については、「らく」とする企業が3.6%、「苦しい」とする企業が16.1%となった結果、D Iは△12.5となりました。

(6)収益率

前年同期比では、「上昇」とする企業が17.3%と前回(16.8%)よりやや増加し、「低下」とする企業が41.1%と前回(42.3%)より減少した結果、D Iは前回(△25.5)より改善し、△23.8となりました。

3ヵ月前との比較では、「上昇」とする企業が8.5%と前回(8.2%)よりやや増加し、「低下」とする企業が26.4%と前回(31.4%)より減少した結果、D Iは前回(△23.2)より改善し、△17.9となりました。

3ヵ月後の予想については、「上昇」とする企業が8.5%、「低下」とする企業が24.0%となった結果、D Iは△15.5となりました。

(7)製造業の業種別動向

電 機 ・ 電 子

(コンピュータ・情報機器) パソコンは、法人向け需要の増加により、受注、生産が好調に推移しています。プリンターは、受注、生産が堅調に推移しています。

(半導体関連・プリント基板) 半導体関連は、E Vを中心とした自動車関連向けでは、受注、生産に一服感がみられるほか、スマートフォン、P C向けで需要回復の遅れにより、受注、生産に足踏みがみられます。

(抵抗器・コンデンサ等) 抵抗器・コンデンサ等は、自動車関連向けが弱含んでいる一方、情報通信向けと産業用機械向けで受注、生産に持ち直しがみられます。

(モーター等) モーター等は、産業用ロボット向けで中国での需要減少の影響等により、受注、生産が低調に推移している一方で、航空機向けで航空機需要の回復により、受注、生産が堅調に推移しています。

(そ の 他) 車載部品は、受注、生産が堅調に推移しています。

一 般 機 械

(工 作 機 械) 工作機械は、半導体向け（生成A I、データセンター）が順調に推移しているものの、全体的には中国経済の減速の影響等により、受注、生産が低調に推移しています。

(金 型) 金型は、自動車関連（E V）向けで受注が増加しているものの、米国関税措置等により先行きに不透明感がみられます。

(建 設 機 械) 建設機械は、海外向けの受注が減少しており、生産、販売が底堅く推移しています。

(農業用機械等) 農業用機械等は、国内向けの需要が減少しており、低調に推移しています。

精 密

(時 計)

時計は、国内外ともに需要が堅調であり、受注、生産は好調に推移しています。

(レ ン ズ)

レンズは、映像関連向けの一部で米国関税措置の影響による駆け込み需要が増えているものの、その他は受注、生産が堅調に推移しています。

(計 器)

圧力計は、半導体関連の在庫調整等の影響で、受注、生産が弱含んでいます。LPガスメーターは、ガス用IoT関連機器がけん引し、受注、生産が堅調に推移しています。

自 動 車 部 品

自動車部品は、一部自動車メーカーの生産の落ち込みは限定的であったものの、受注、生産は低調に推移しているほか、米国関税措置や一部自動車メーカーの経営不振等により、先行きに不透明感がみられます。

食 料 品

(味 そ)

味そは、受注、生産が堅調に推移しているものの、原材料価格の高騰等により収益率の低下がみられます。

(酒 類)

酒類は、酒米高騰の影響に消費マインドの後退が重なり、受注、生産が低調に推移しています。

(飲 料)

飲料は、季節的要因などにより、受注、生産に回復が見られます。

繊 維 ・ 衣 服

繊維・衣服は、季節的要因により、受注、販売が減少しています。

紙 ・ パ ル プ

ダンボールは、米の価格高騰の影響などにより、農産物向けで受注、生産が減少しています。

印 刷

印刷は、印刷・製本の需要の低迷などにより、低調に推移しています。

3 非製造業

業界の業況

前年同期（令和6年4月）と比較したD Iは1.5となり、前回調査時（令和7年1月）の△12.0より13.5ポイント改善し、6期ぶりのプラス水準となりました。

3か月前（令和7年1月）と比較したD Iは3.6となり、前回調査時の△25.0より28.6ポイント改善し、7期ぶりのプラス水準となりました。

また、3か月後（令和7年7月）の予想では、D Iは△19.4となりました。

〔主な業種の動き〕

ア 建設業

公共工事や企業の建設投資が底堅い一方、企業では人手不足等に伴い受注量を制限せざるを得ない状況もあり、受注件数D Iや売上高D Iは改善したものの、引き続きマイナス水準となりました。これに伴い、業況D Iについても△12.5と前回（△25.7）から改善したものの、引き続きマイナス水準となりました。

3か月後の業況D Iは△15.6と、現状から横ばい程度での推移が見込まれています。

イ 情報サービス業

一部企業において取引先の情報機器更新の需要があったことや、長期的なI T投資の拡大などにより、客数D Iは4期連続で改善し3期連続でプラス水準となりました。販売価格も長期的に上昇傾向にあることから、売上高D Iもプラス水準で推移しました。以上から、業況D Iは23.1と前回（50.0）より悪化したものの、3期連続でプラス水準を維持しました。

3か月後の業況D Iは△16.7と、現状からの悪化が見込まれています。

ウ 小売業

価格高騰の中でも食料品の需要が底堅く、百貨店、スーパー、食料品専門店において売上高D Iは改善しました。加えて、自動車の買い替え需要の底堅さなどもあり、小売業全体として売上高D Iは改善し、7期ぶりにプラス水準となりました。一方、価格高騰の中で消費者の節約志向は高まり、一部の商品では買い控えもあることから、小売業全体として客数D Iはマイナス水準となり、業況D Iについても△5.5と前回（△26.7）より改善したものの、7期連続のマイナス水準となりました。

3か月後の業況D Iは、△26.3と、現状からの悪化が見込まれています。

エ 卸売業

取引先の設備投資意欲の減少や住宅着工戸数の低迷に伴う関連機械器具の需要減少、消費者の節約志向に伴う一部商品の需要低迷、他社との競争激化などにより、卸売業全体として客数D Iと売上高D Iが悪化し、マイナス水準となりました。これに伴い、業況D Iは△15.0と前回（0.0）より悪化し、3期ぶりにマイナス水準となりました。

3か月後の業況D Iは△25.0と、現状からの更なる業況悪化が見込まれています。

オ 飲食業

コロナ禍以降の外出需要の回復傾向や、拡大するインバウンド需要などにより、客数D Iが改善して2期ぶりにプラス水準となりました。これに伴い、売上高D Iも改善してプラス水準になるとともに、業況D Iは31.8と前回（3.7）より改善し、3期連続のプラス水準となりました。

3 か月後の業況D I は、△13.7と、現状からの悪化が見込まれています。

カ 宿泊業

物価高騰に伴い、販売価格D I はプラス水準であるとともに引き続き改善しました。一方、観光地における堅調なインバウンド需要などから、客数D I は2期連続で悪化したもののプラス水準を維持し、売上高D I についても同様の推移となりました。以上から、業況D I は35.7と前回（50.0）から低下したものの、プラス水準を維持しました。

3 か月後の業況D I は14.3と、現状から低下するもののプラス水準での推移が見込まれています。

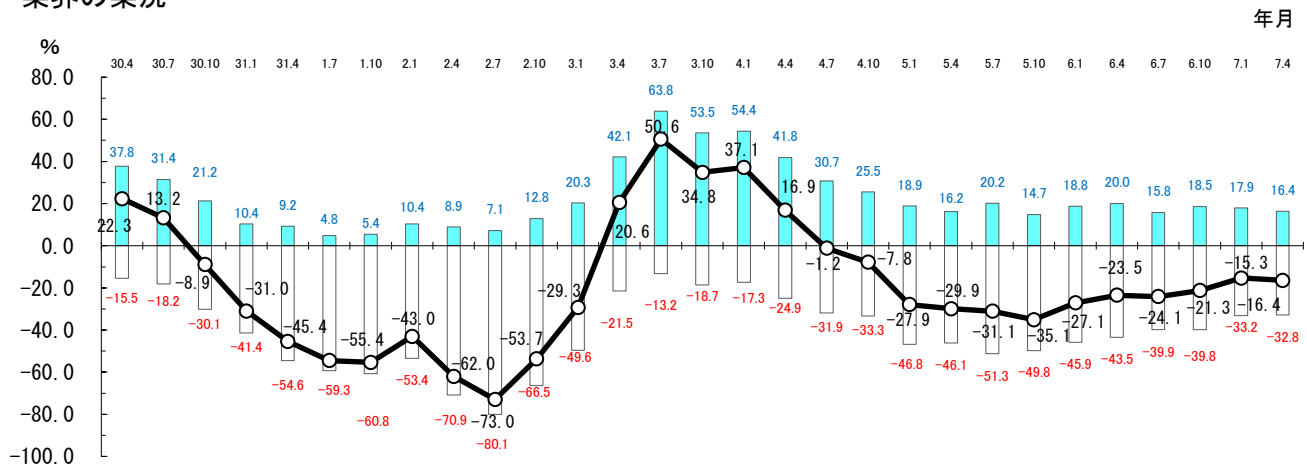
景気動向調査集計結果

(注) 棒グラフのプラス側は好転（増加、上昇）の企業の割合、マイナス側は悪化（減少、低下）の企業の割合です。
折れ線グラフ（D I）は好転（増加、上昇）の企業の割合から悪化（減少、低下）の企業の割合を引いた差です。

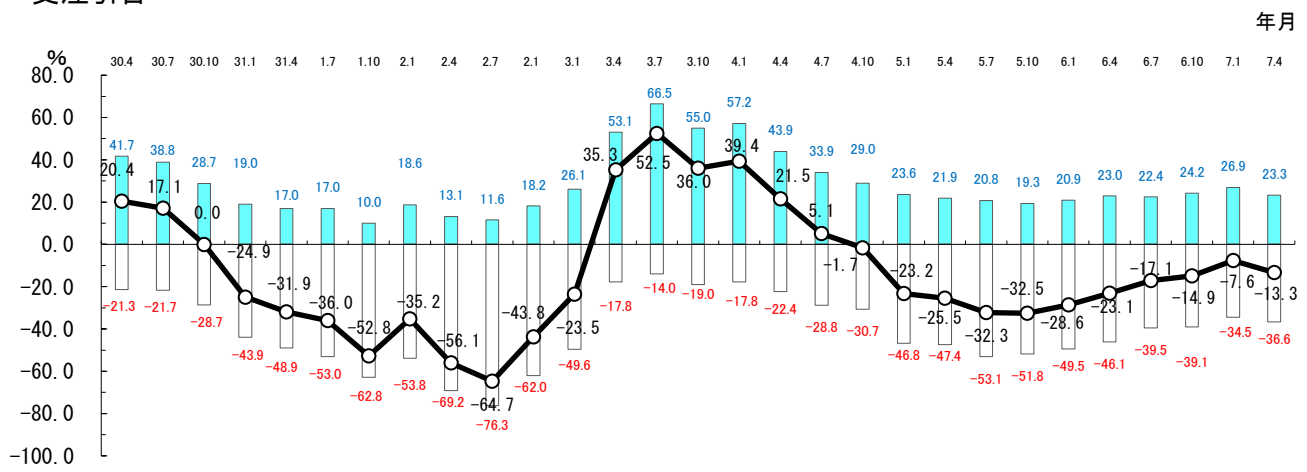
1 製造業

（１）前年同期に比べて

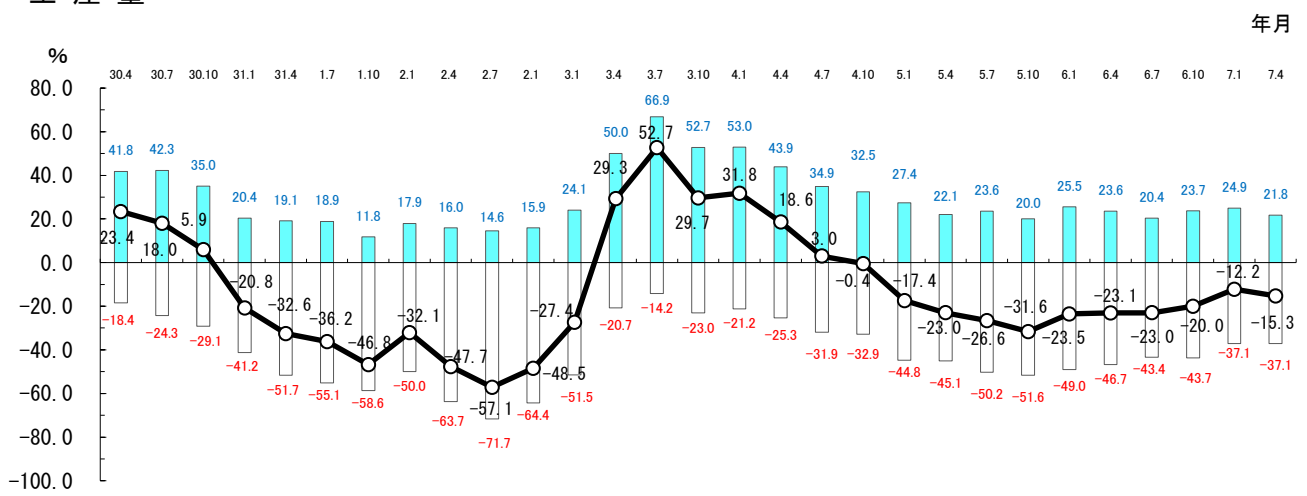
業界の業況



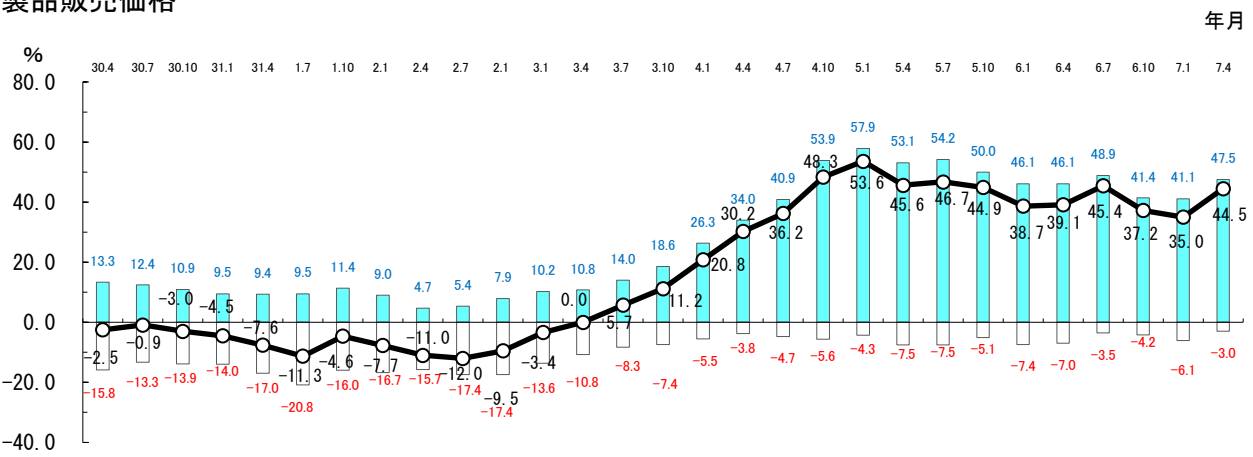
受注引合



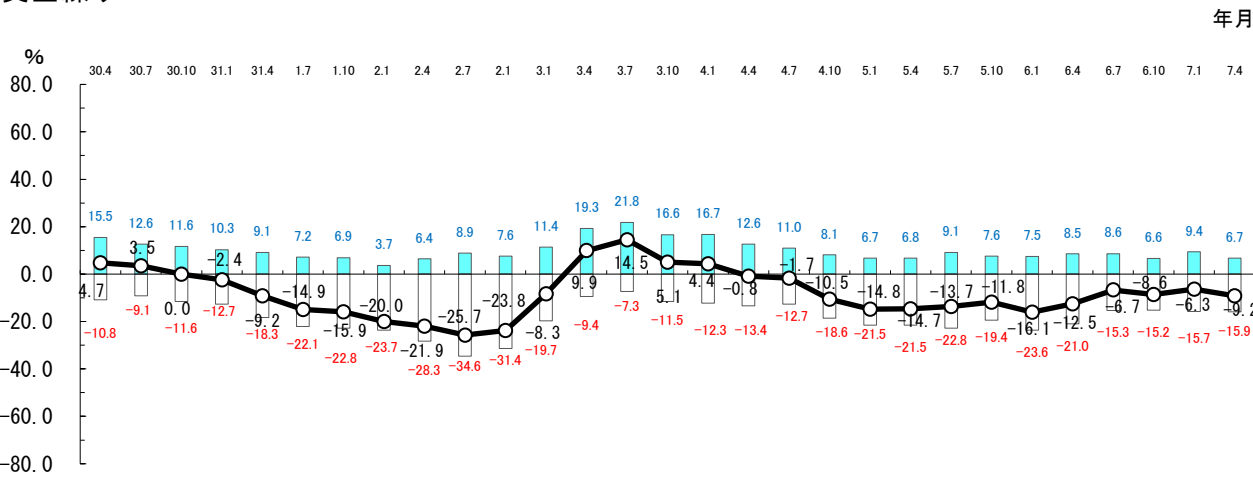
生産量



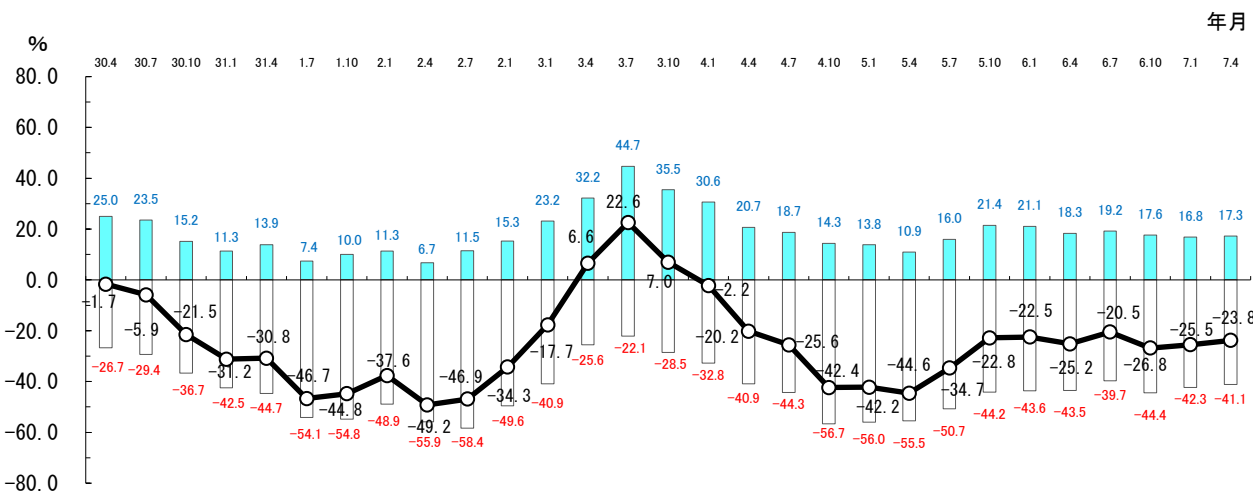
製品販売価格



資金繰り

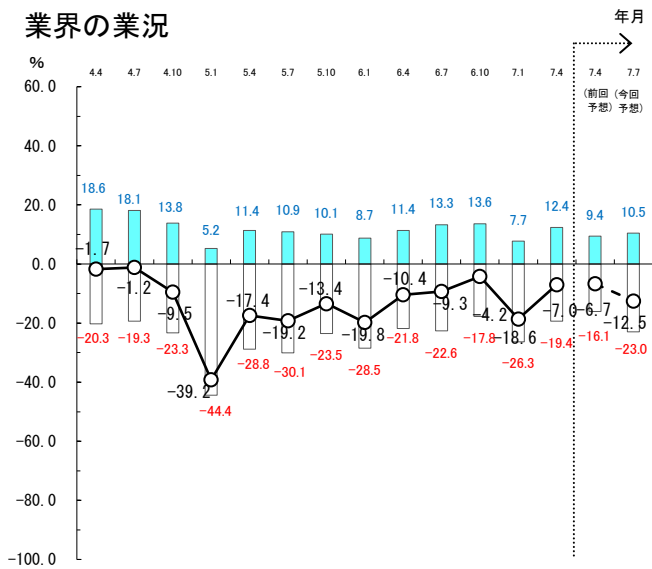


収益率

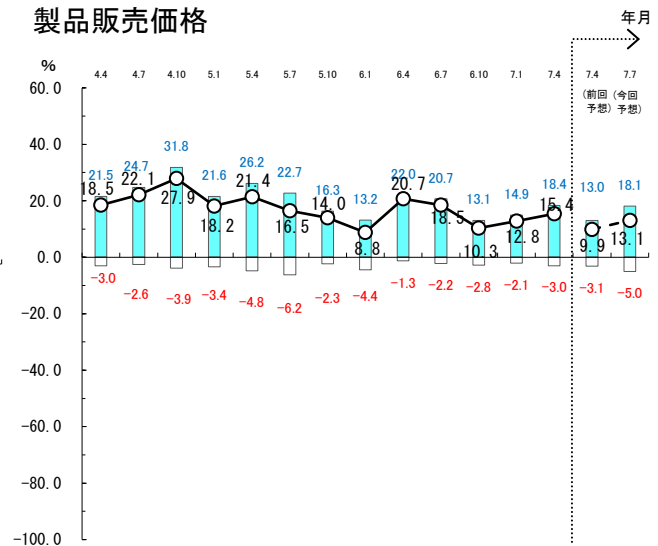


(2) 3か月前に比べて及び3か月後の予想

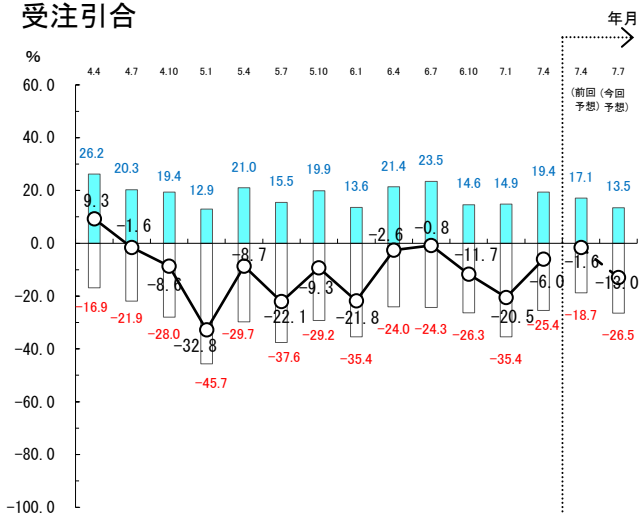
業界の業況



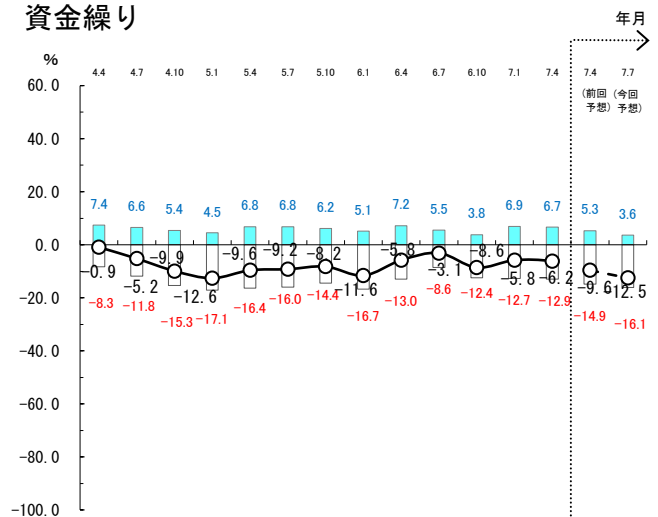
製品販売価格



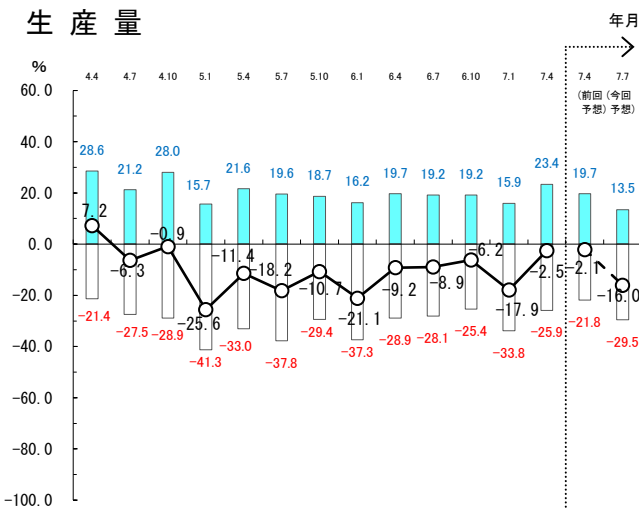
受注引合



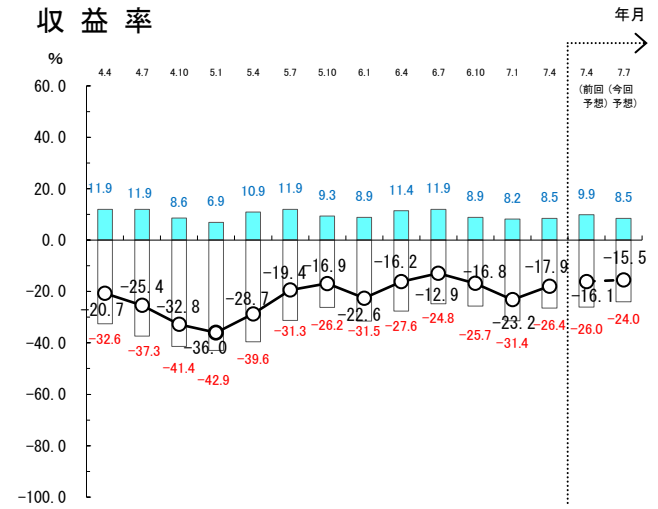
資金繰り



生産量



収益率

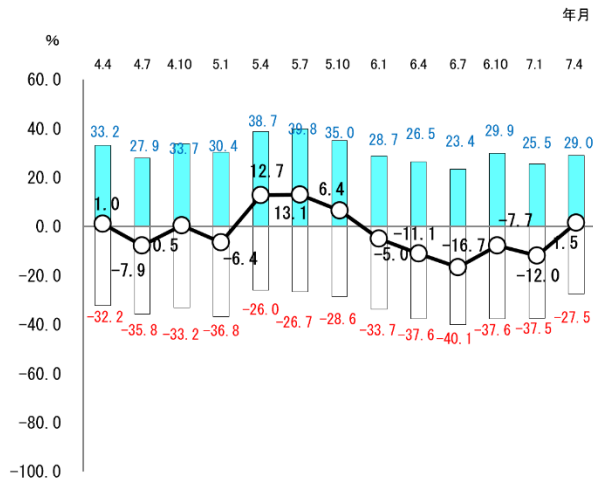


2 非製造業

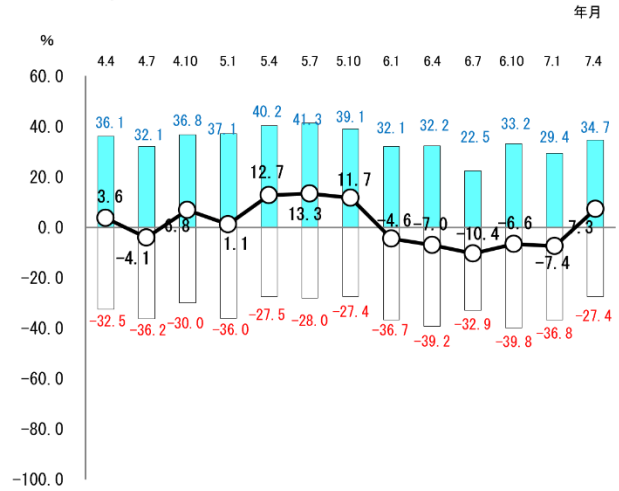
非製造業全体

(1) 前年同期に比べて

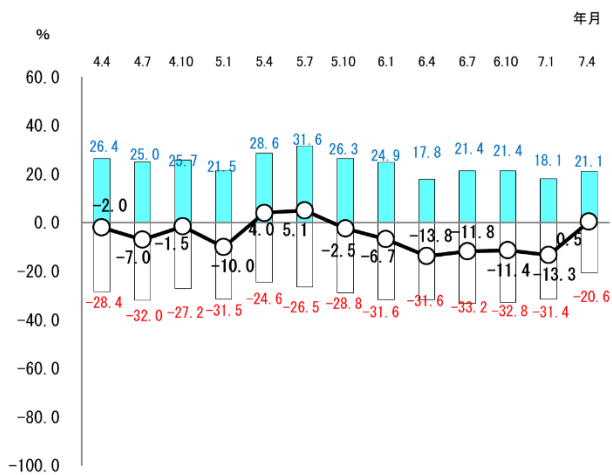
業況



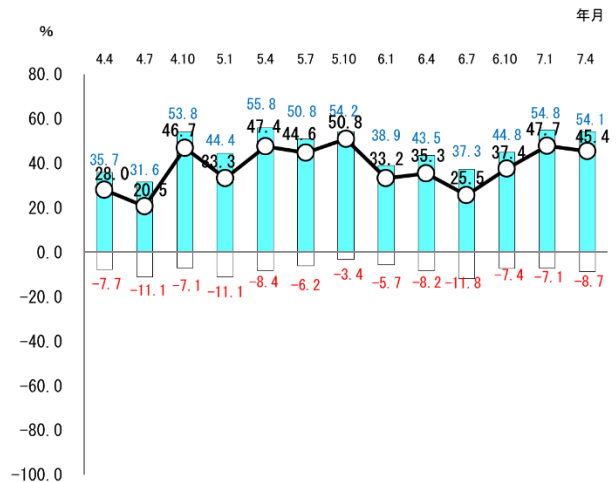
売上高



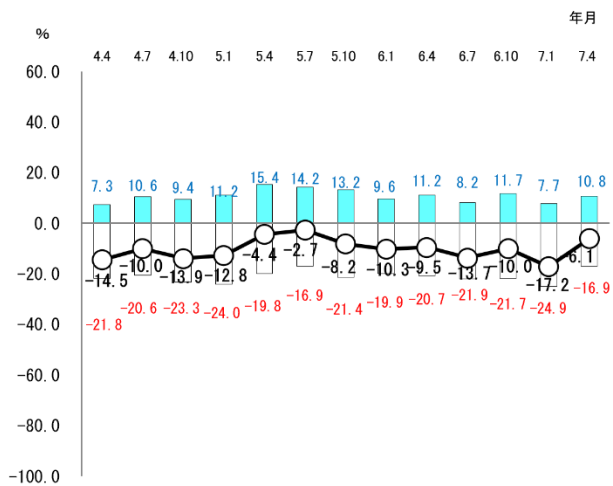
客数 (受注件数・取引先数)



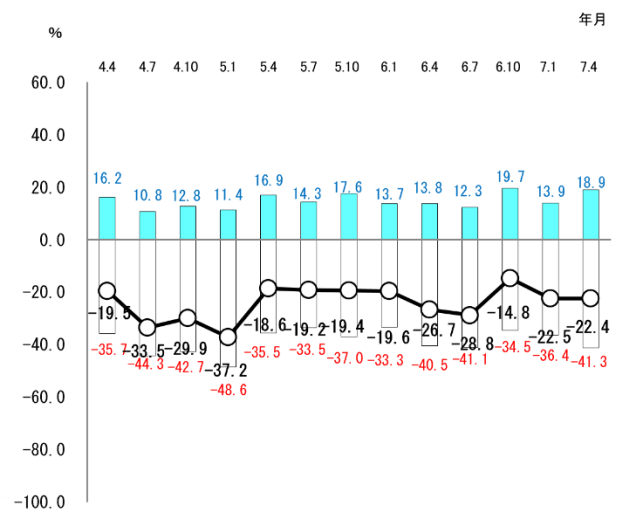
販売価格



資金繰り

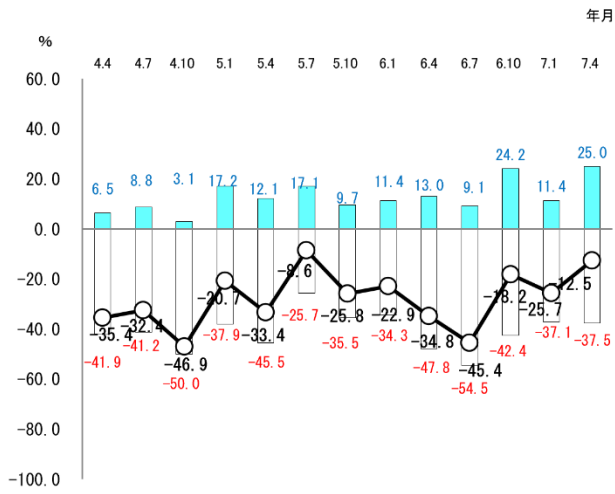


収益率

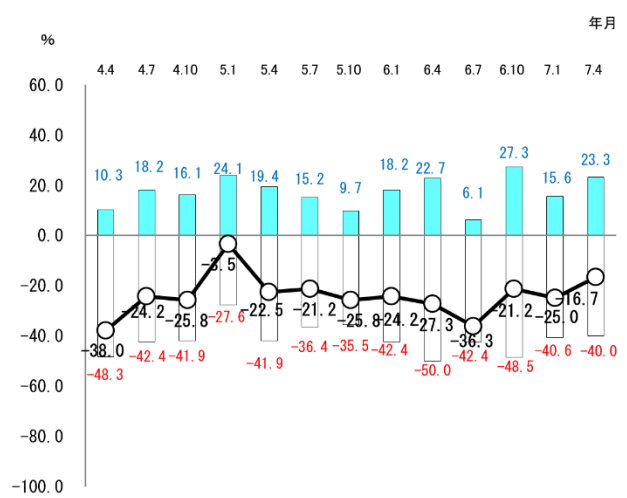


ア 建設業

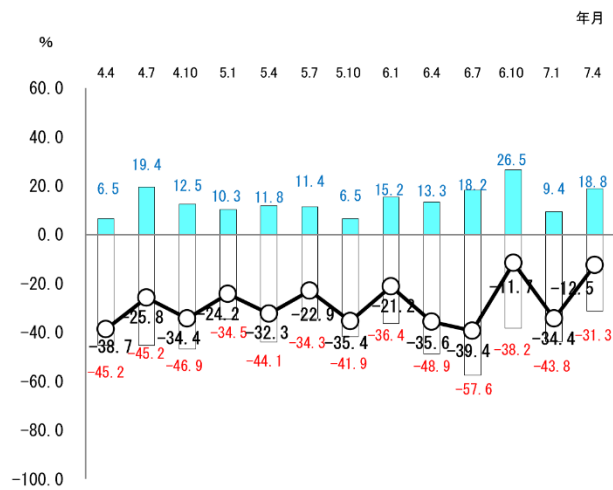
業況



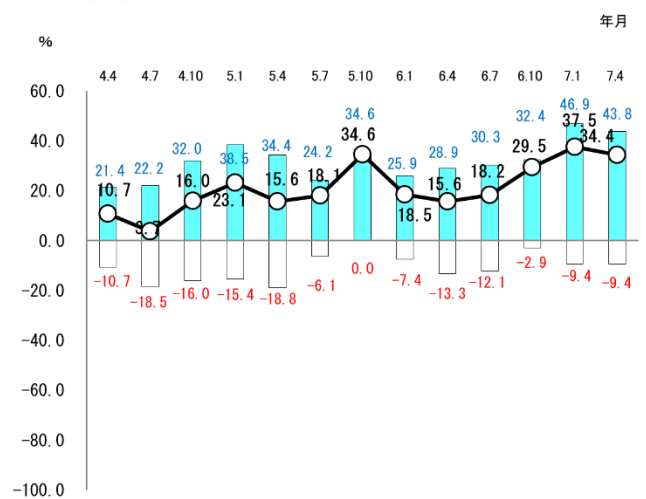
売上高



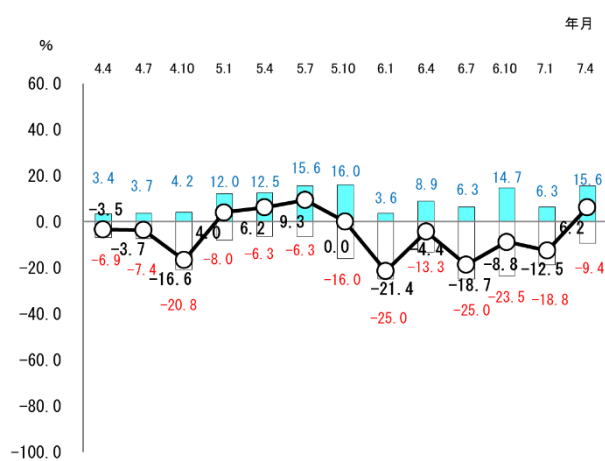
客数（受注件数）



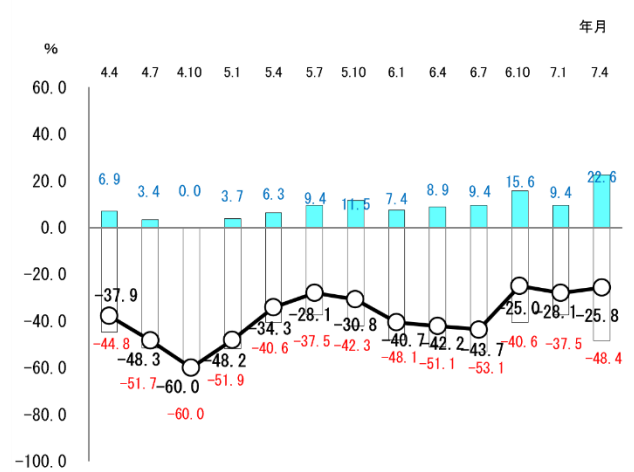
販売価格



資金繰り

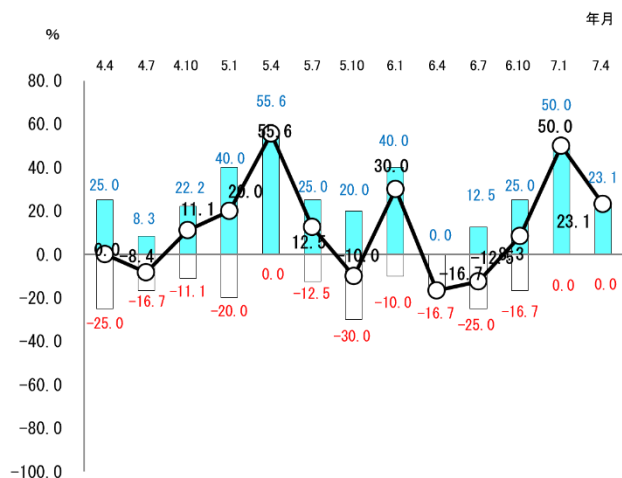


収益率

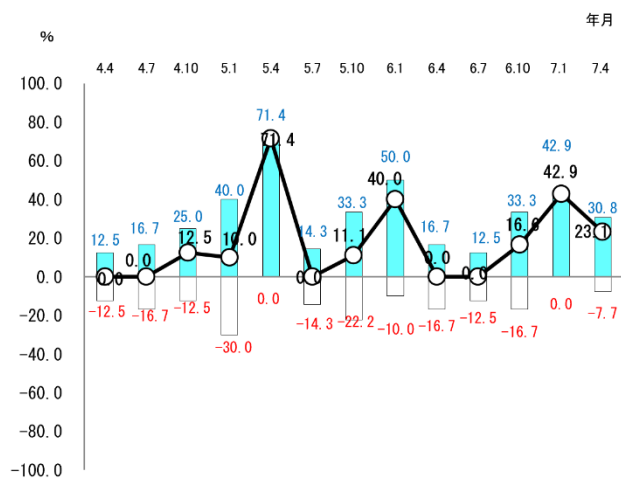


イ 情報サービス業

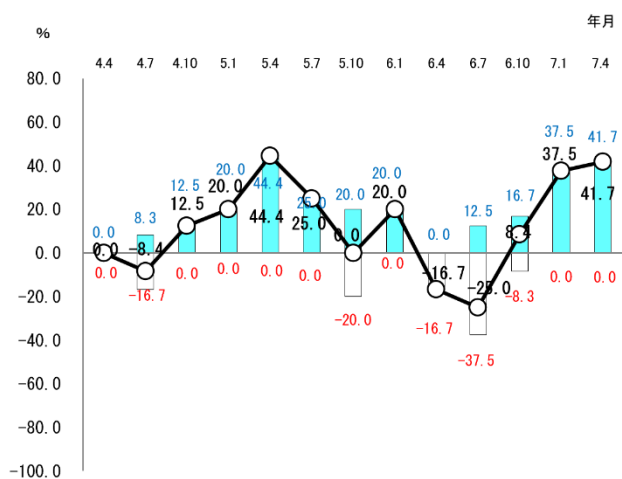
業況



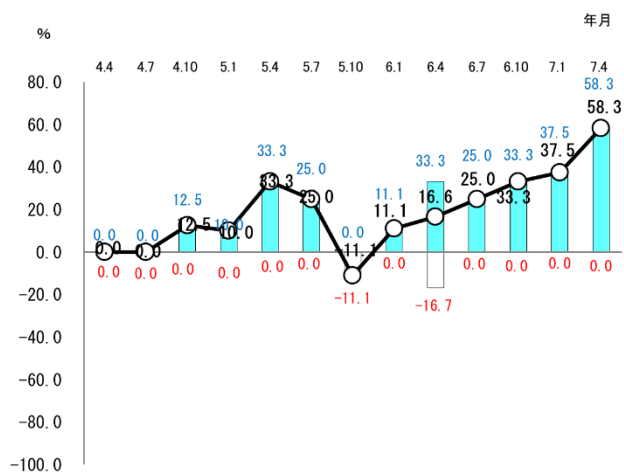
売上高



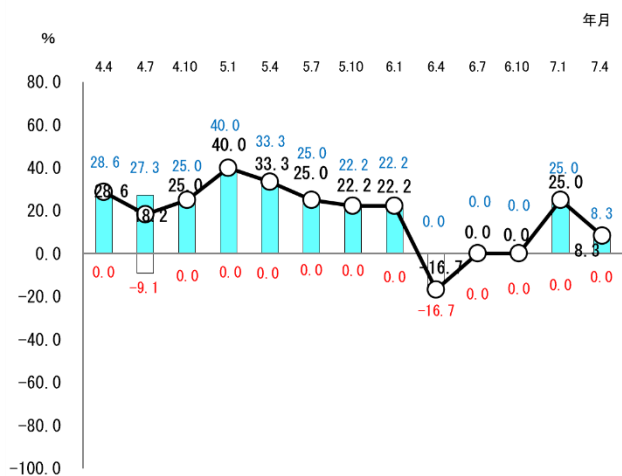
客数 (受注件数)



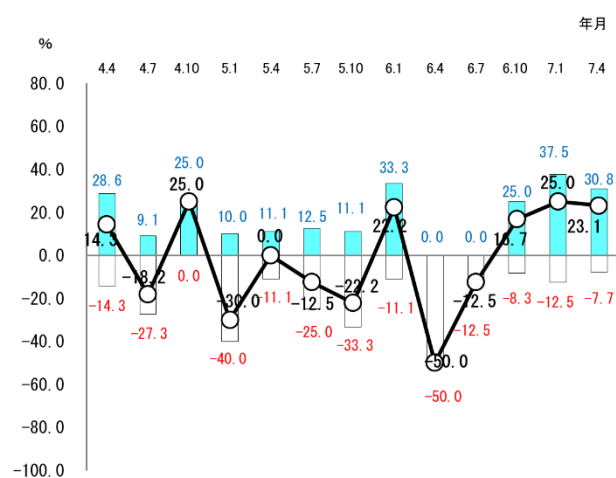
販売価格



資金繰り

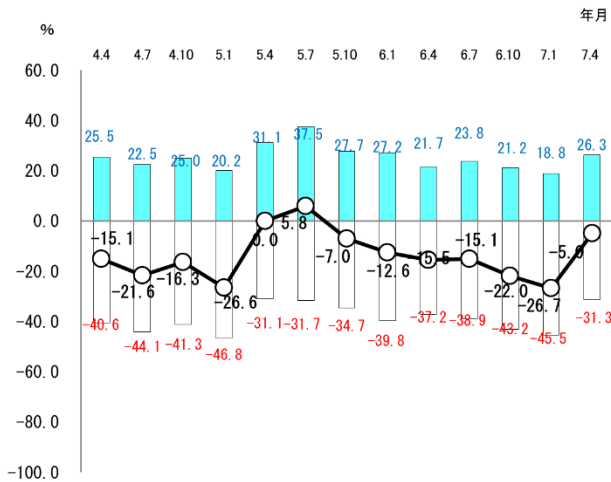


収益率

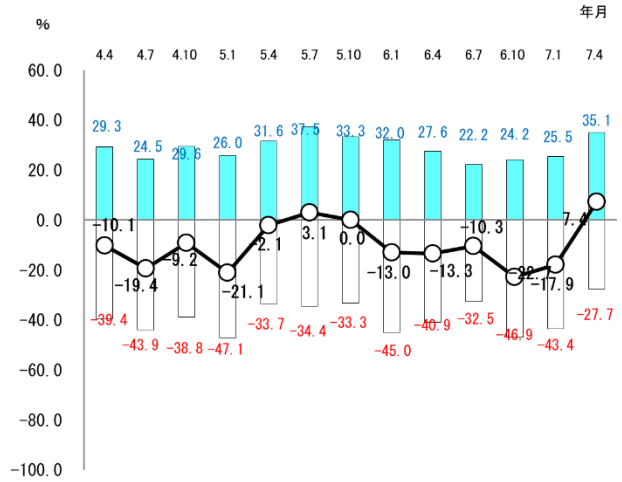


ウ 小売業

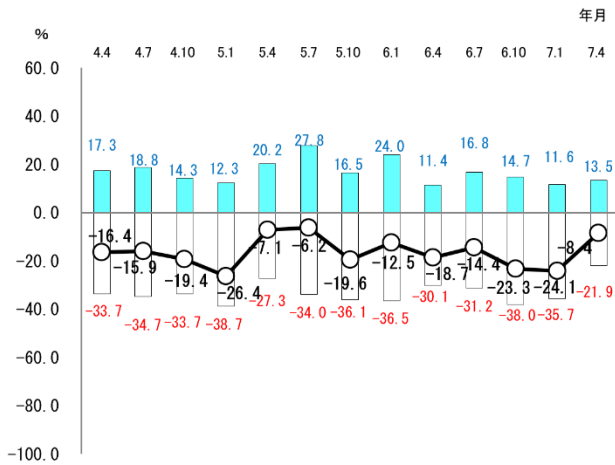
業況



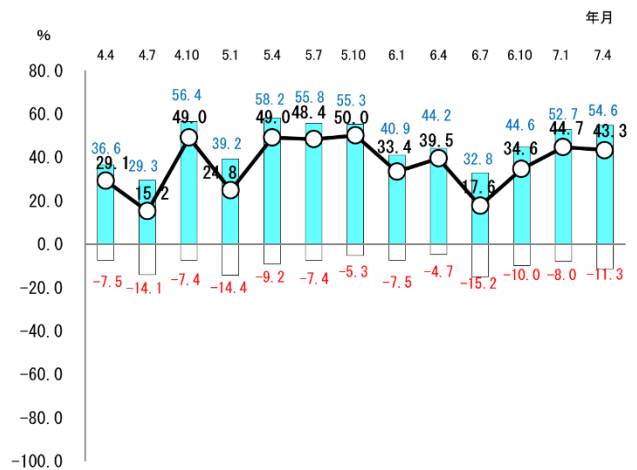
売上高



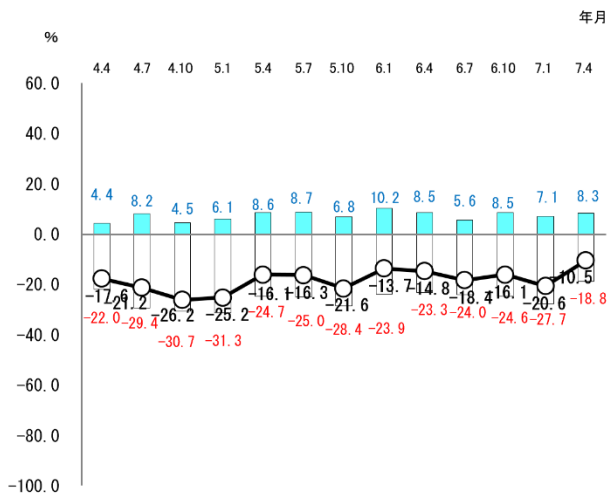
客数



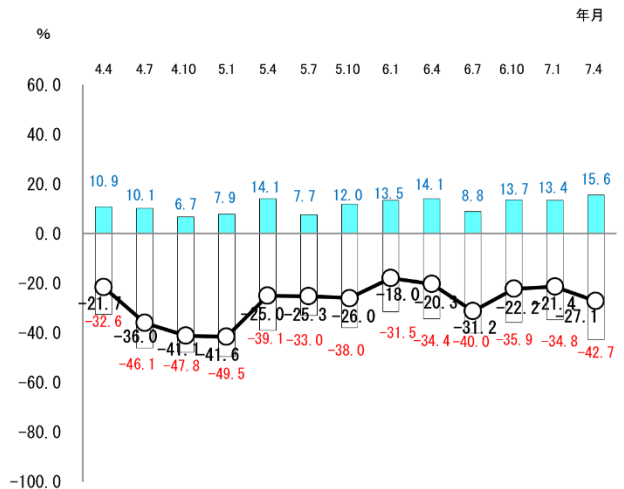
販売価格



資金繰り

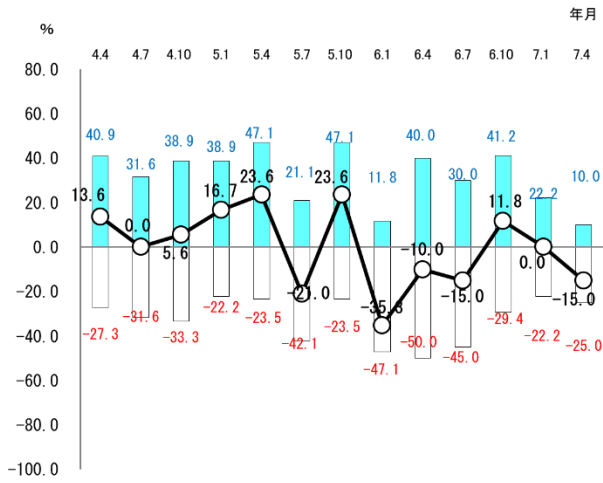


収益率

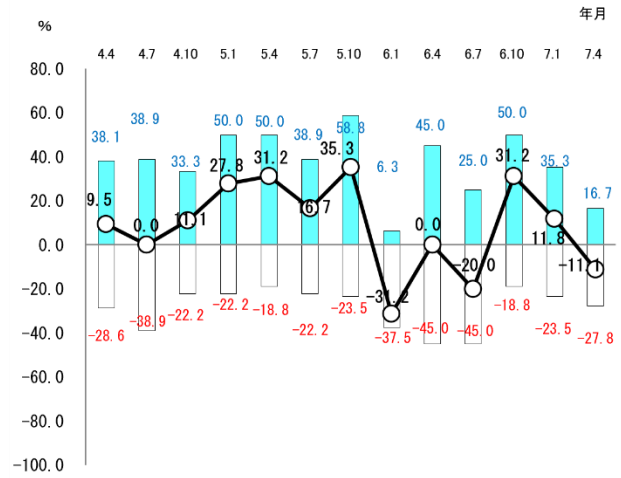


工 卸売業

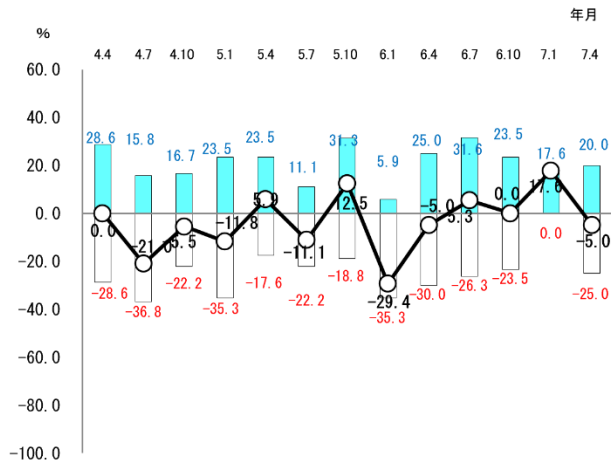
業況



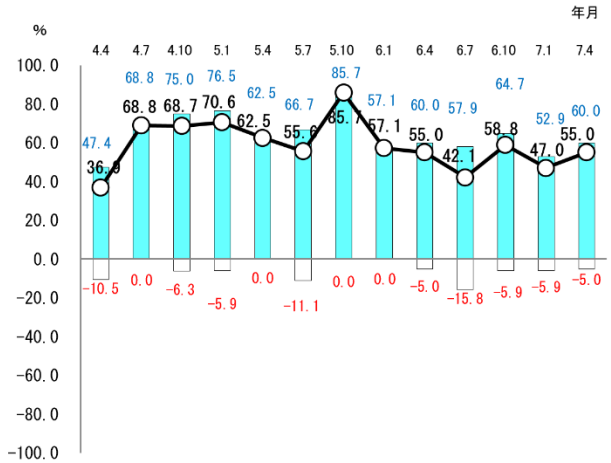
売上高



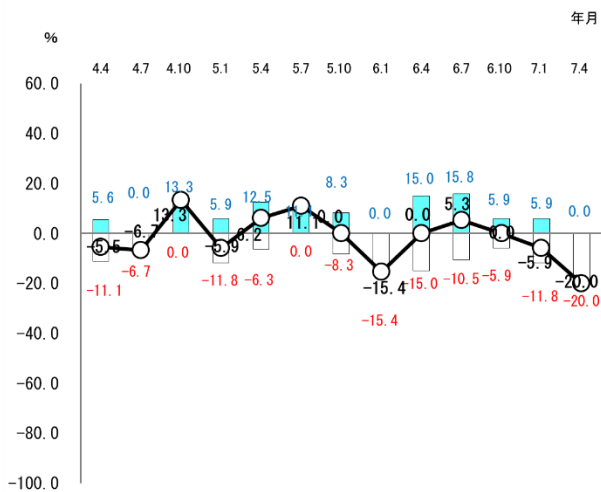
客数 (取引先数)



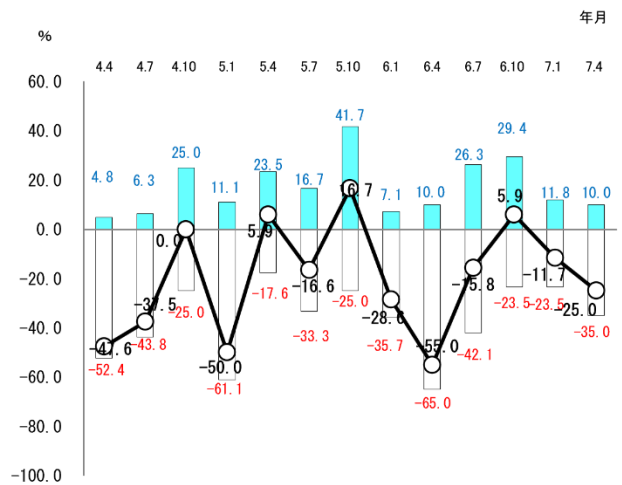
販売価格



資金繰り

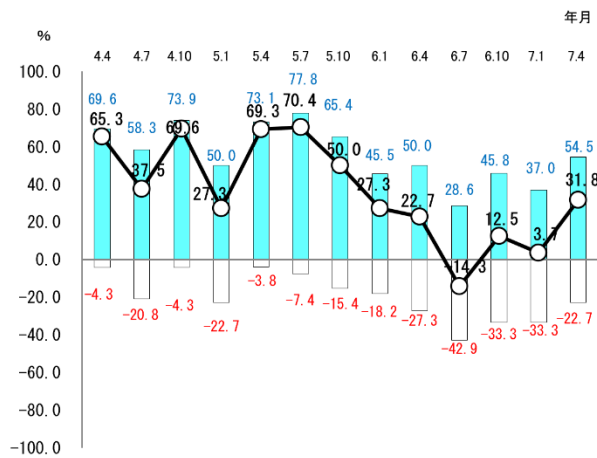


収益率

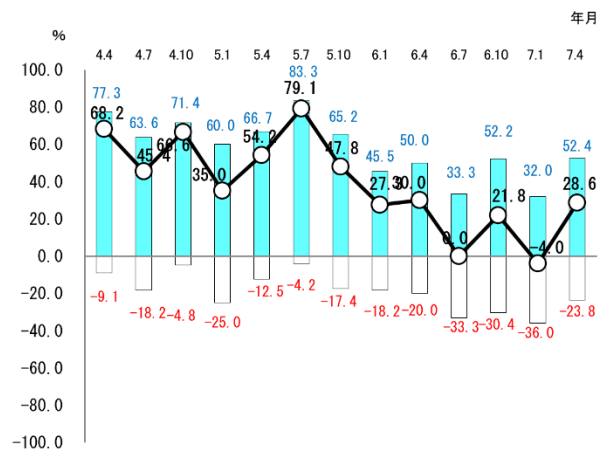


才 飲食業

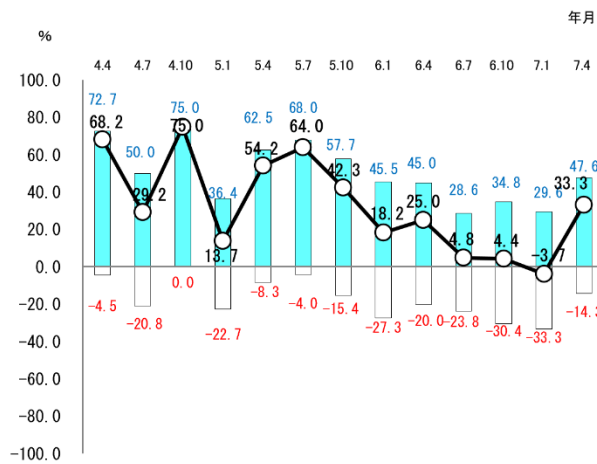
業況



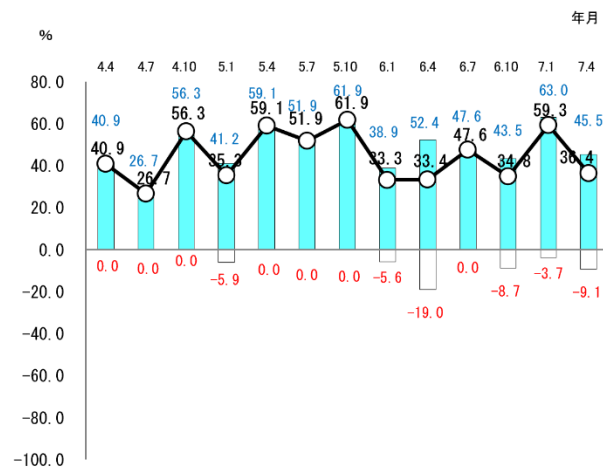
売上高



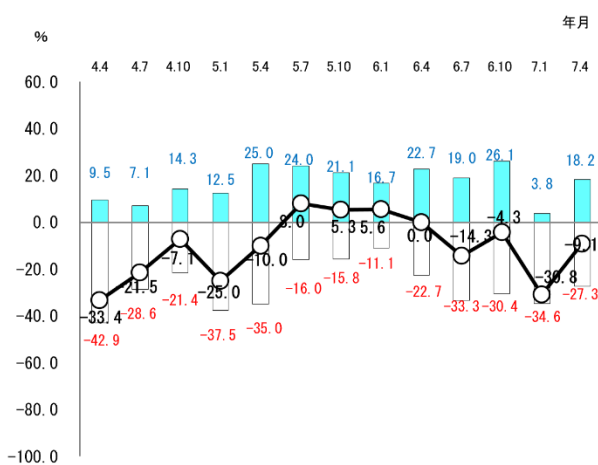
客数



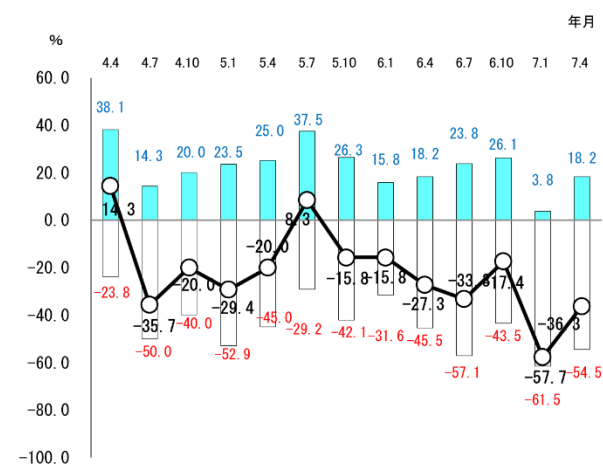
販売価格



資金繰り

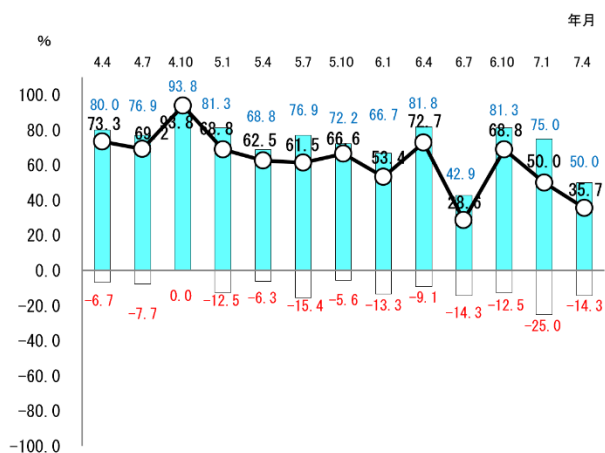


収益率

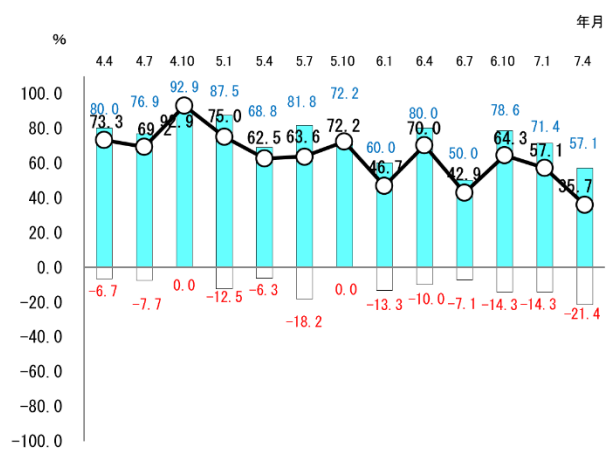


力 宿泊業

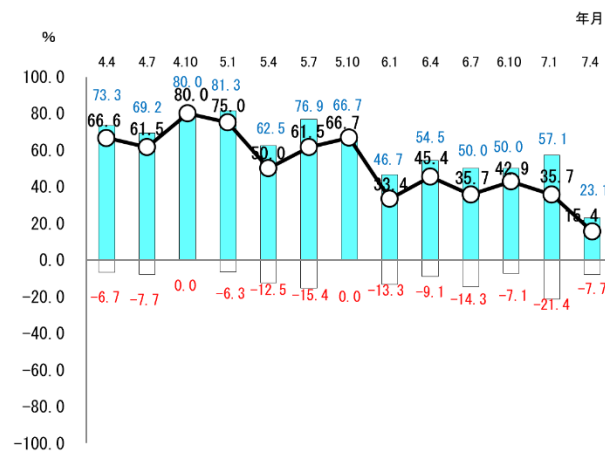
業況



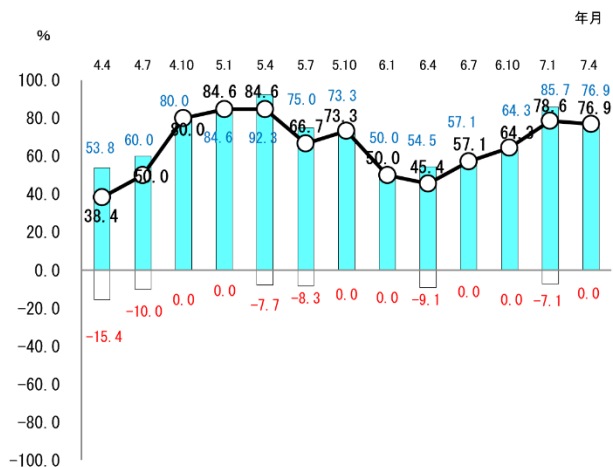
売上高



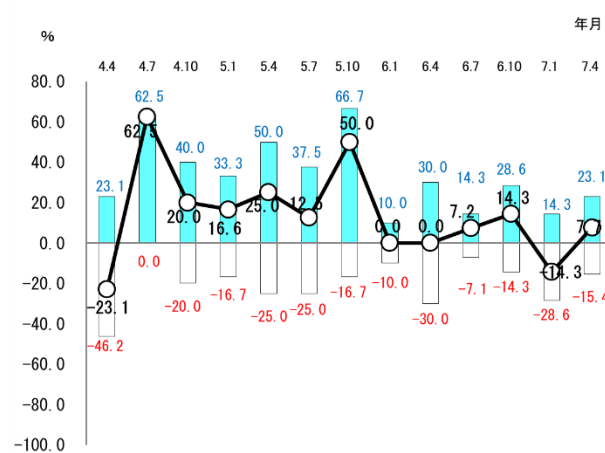
客数



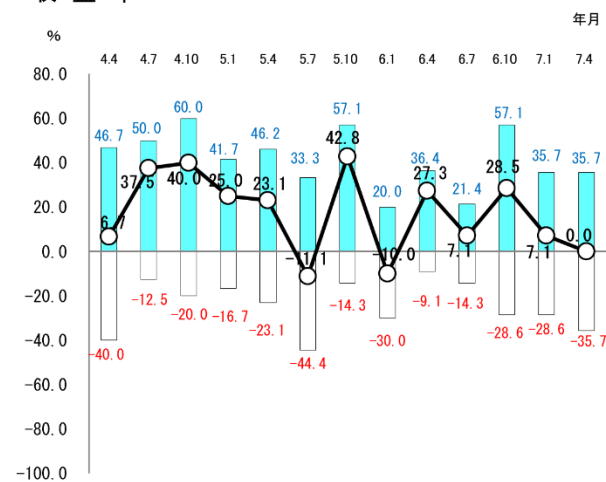
販売価格



資金繰り

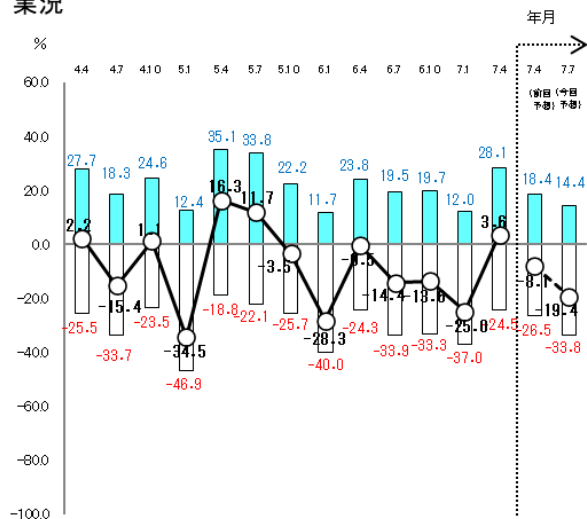


収益率

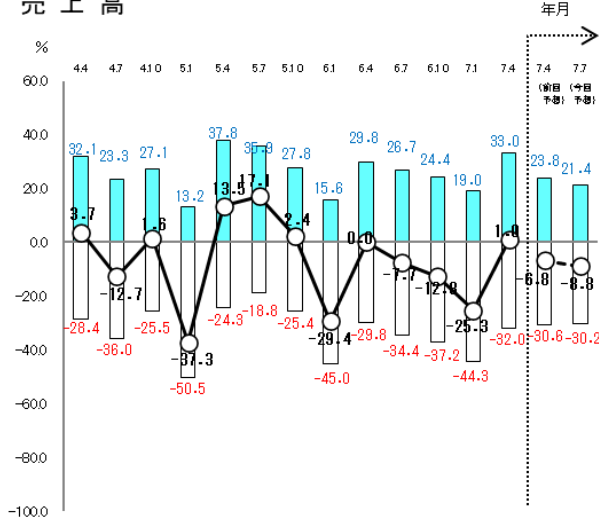


(2) 3か月前に比べて及び3か月後の予想 非製造業全体

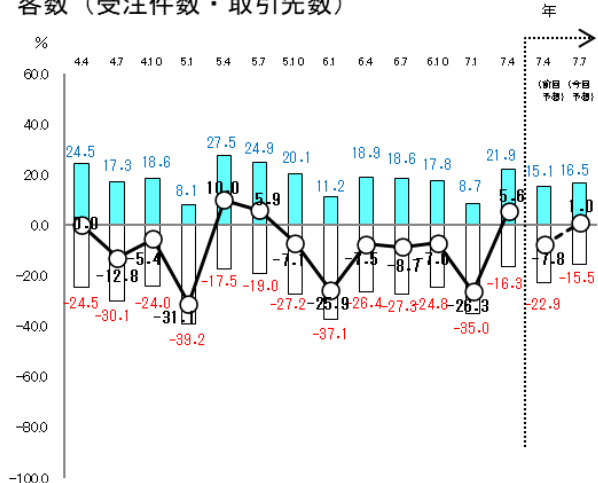
業況



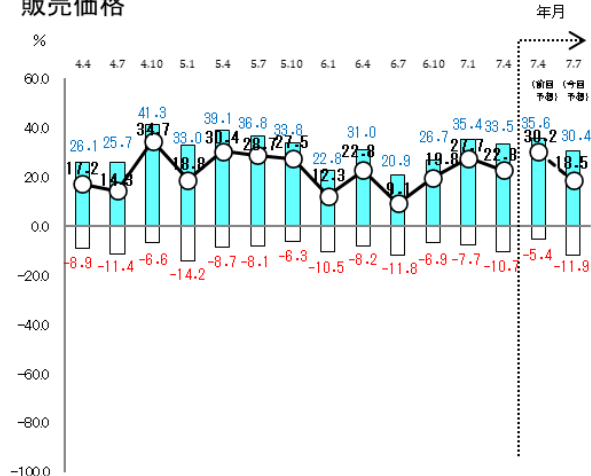
売上高



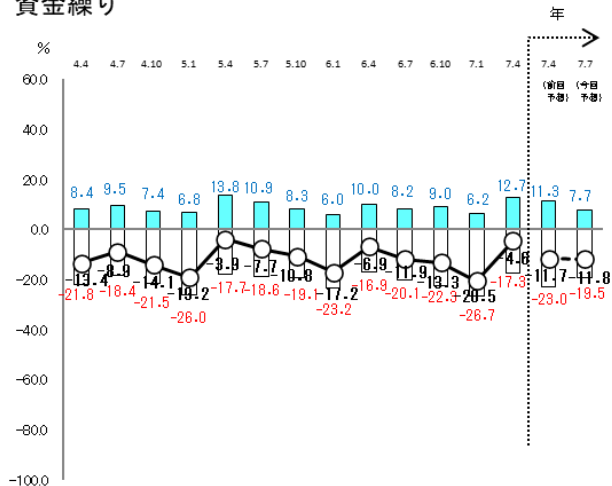
客数 (受注件数・取引先数)



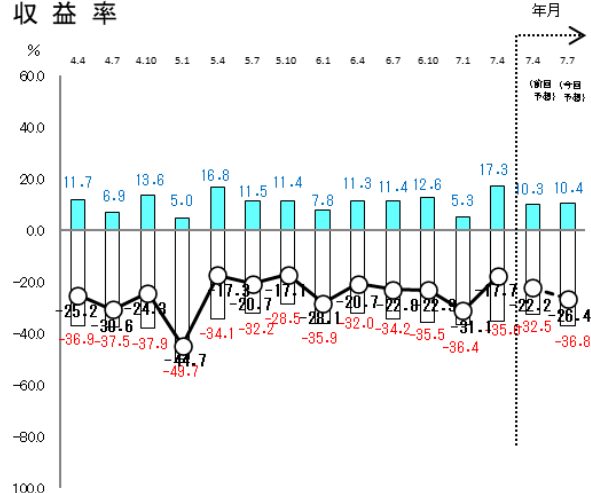
販売価格



資金繰り

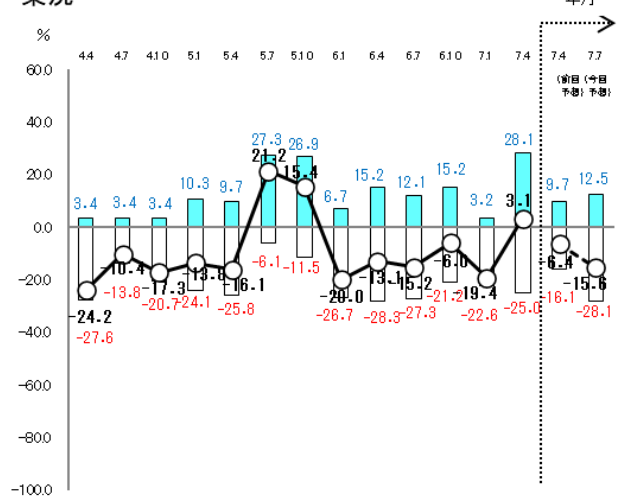


収益率

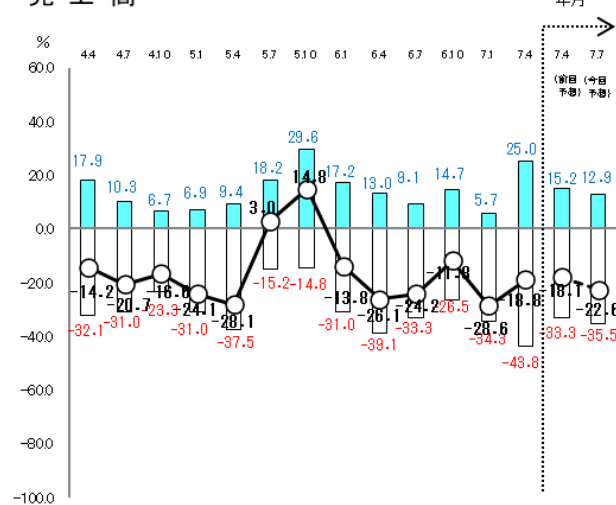


ア 建設業

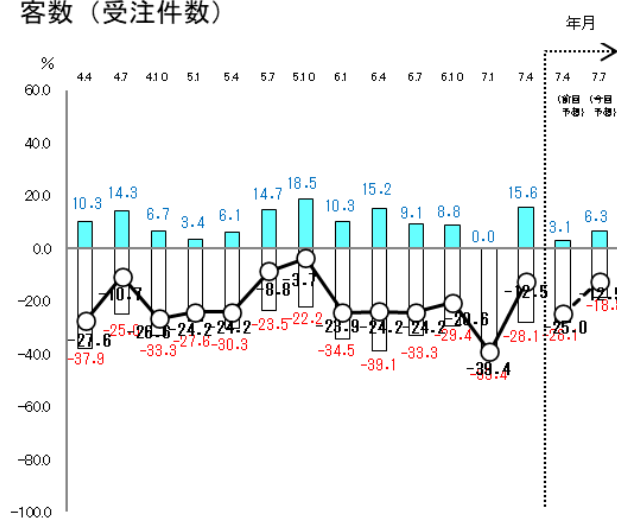
業況



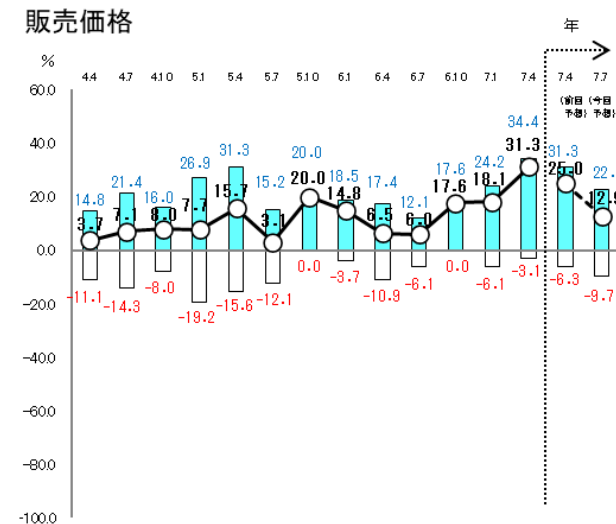
売上高



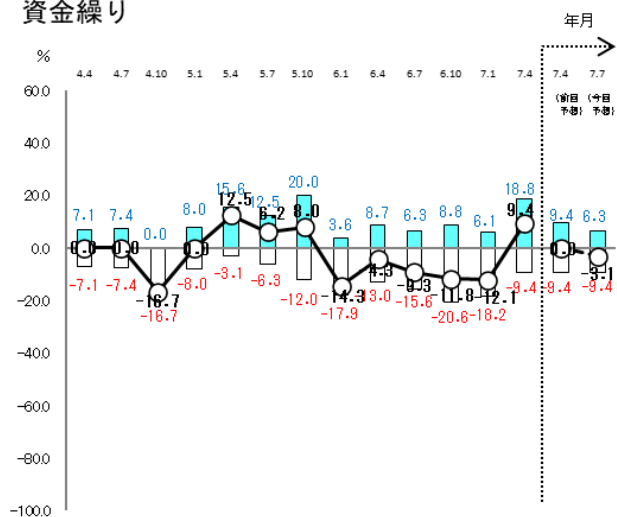
客数 (受注件数)



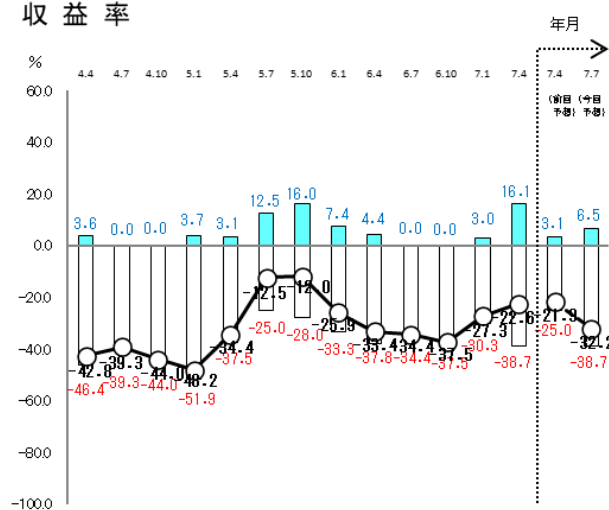
販売価格



資金繰り

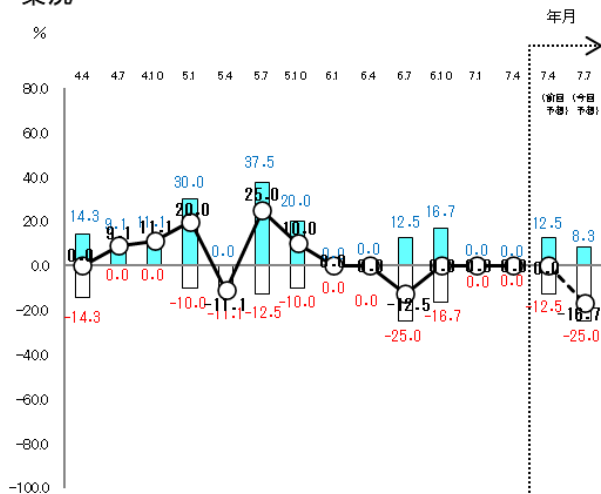


収益率

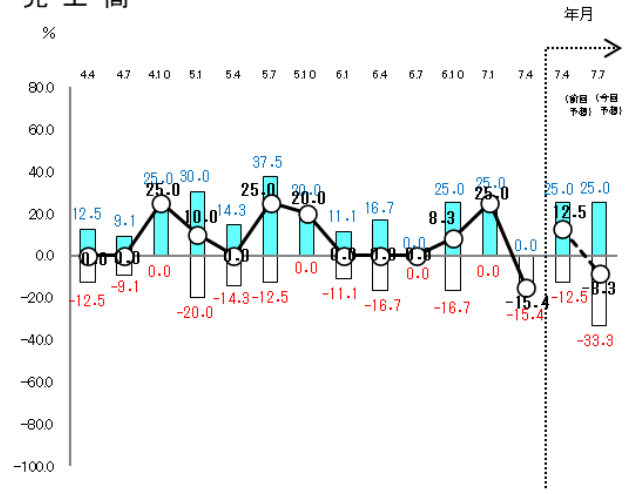


イ 情報サービス業

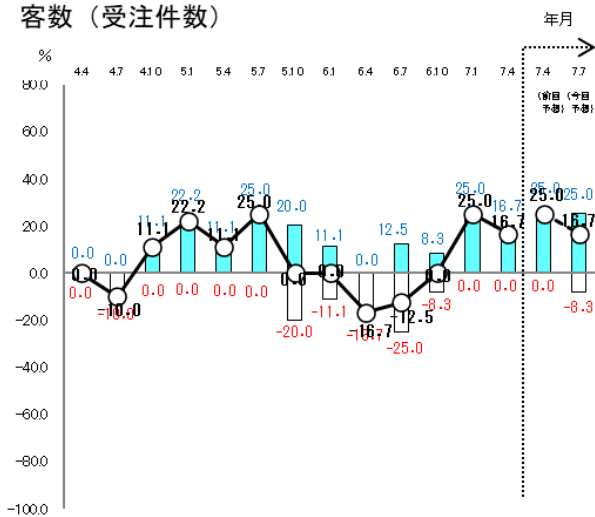
業況



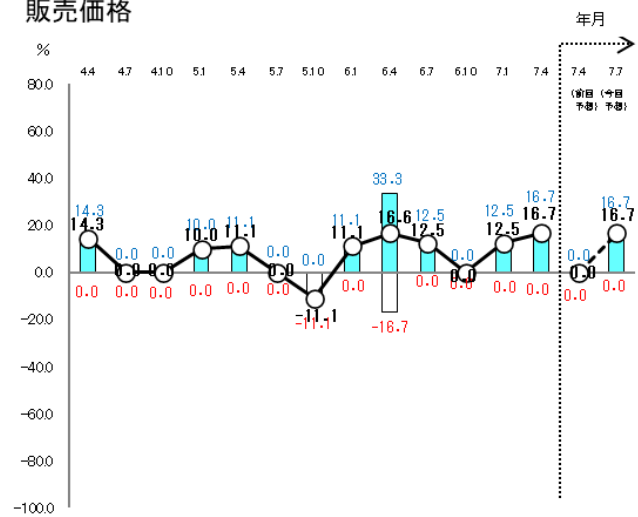
売上高



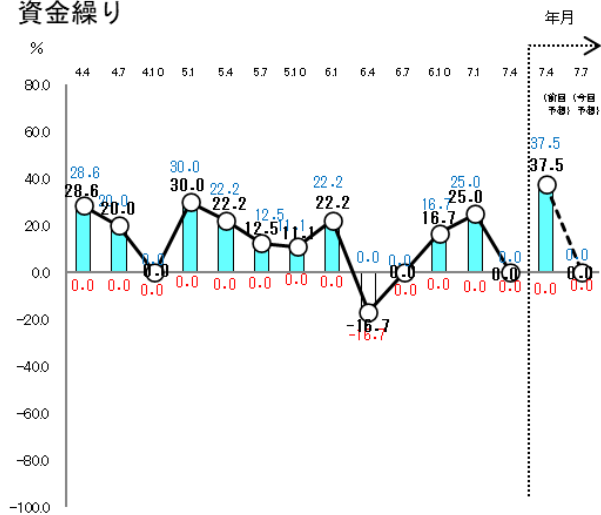
客数 (受注件数)



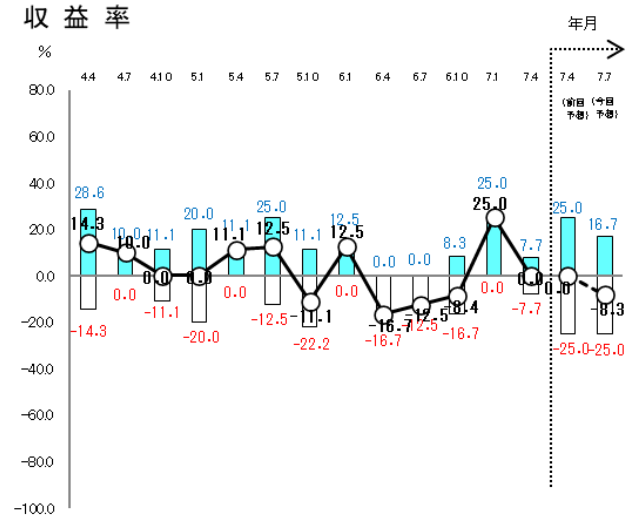
販売価格



資金繰り

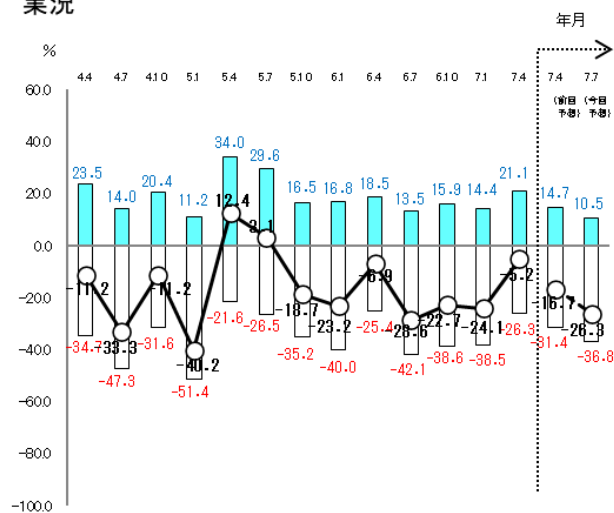


収益率

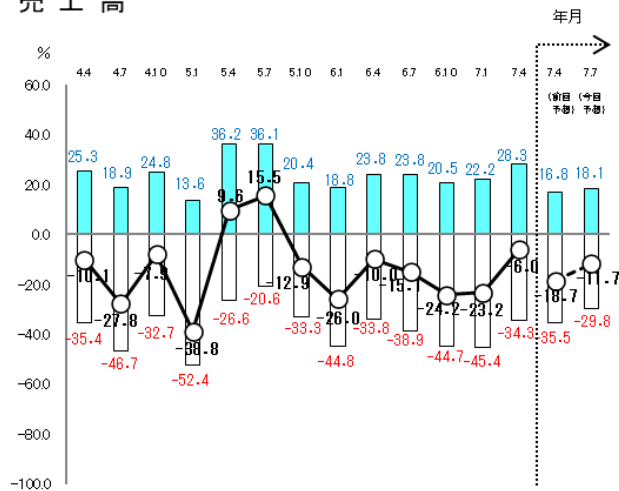


ウ 小売業

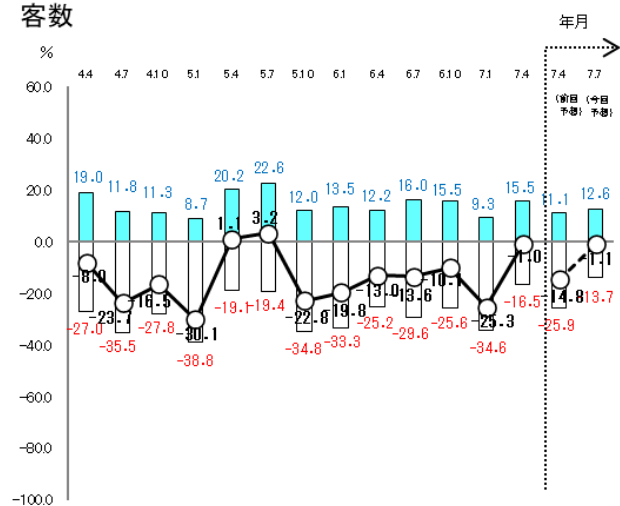
業況



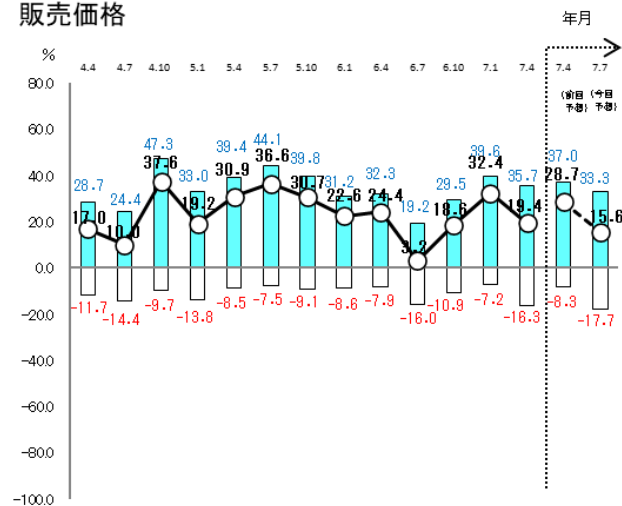
売上高



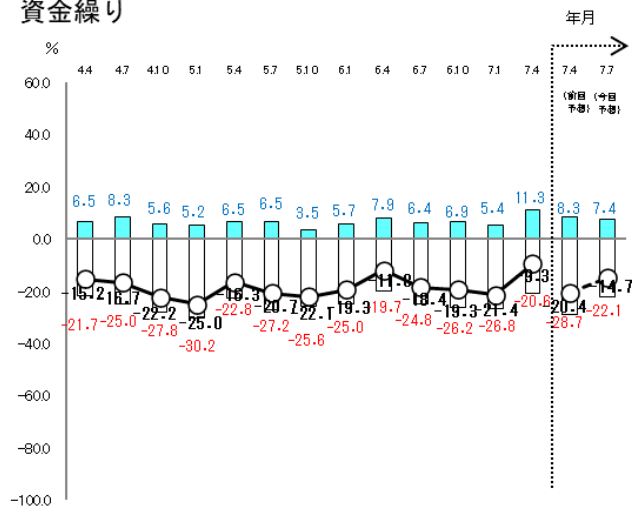
客数



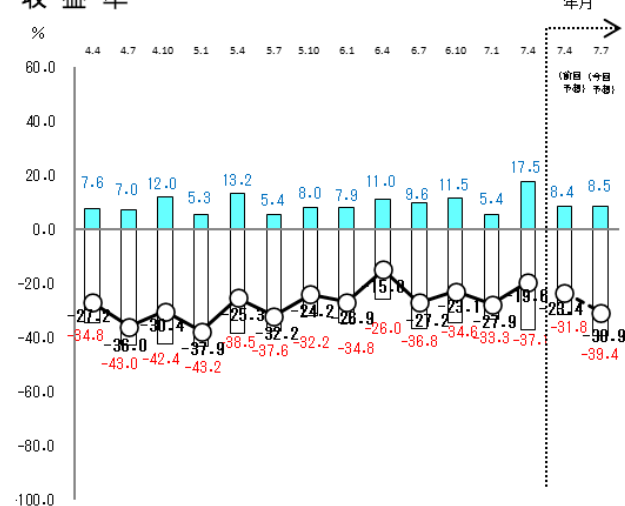
販売価格



資金繰り

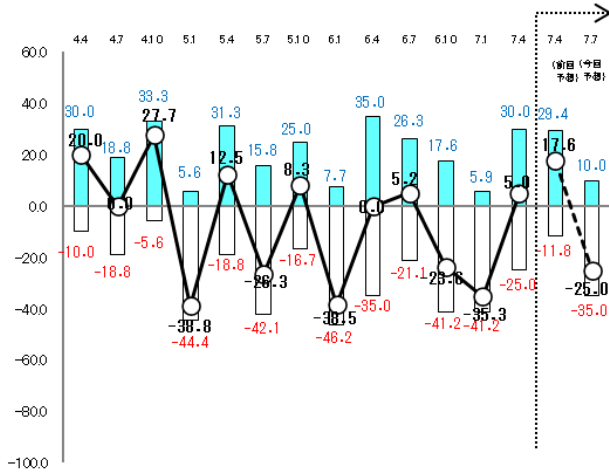


収益率

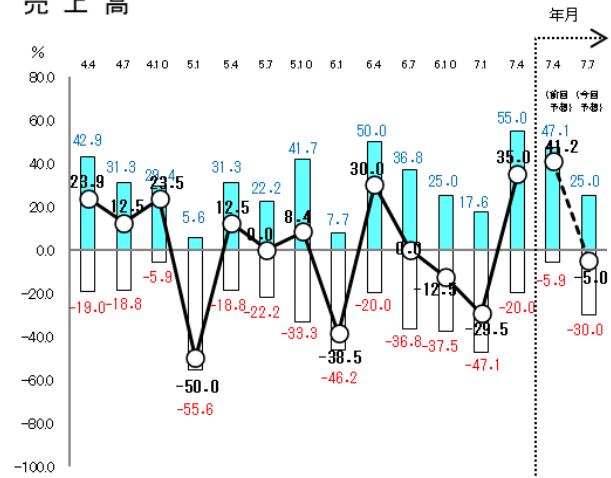


工 卸売業

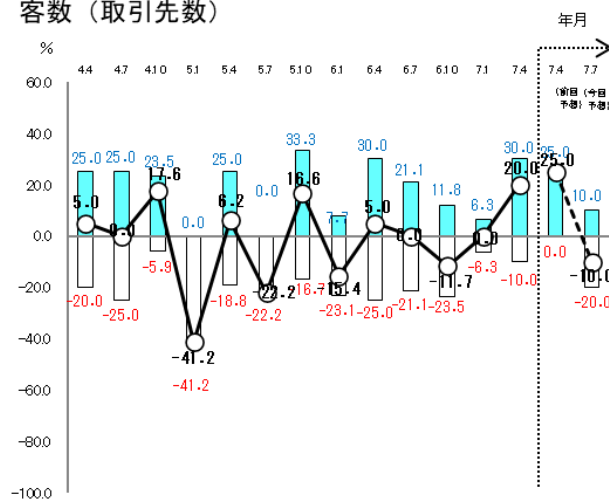
業況



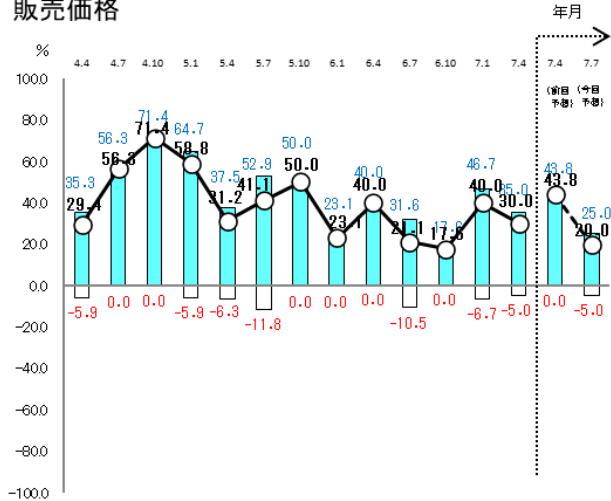
売上高



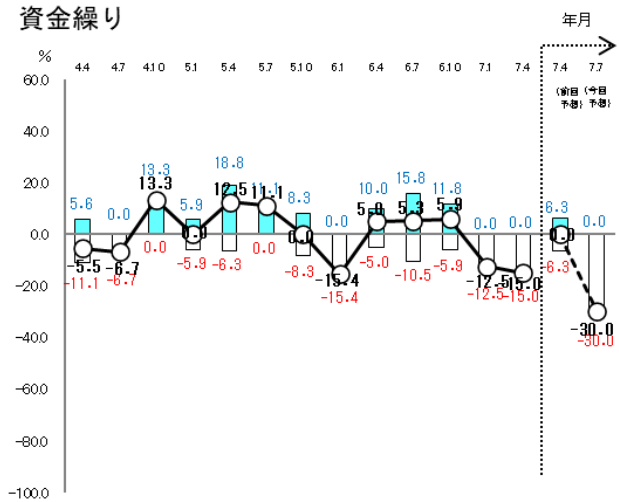
客数 (取引先数)



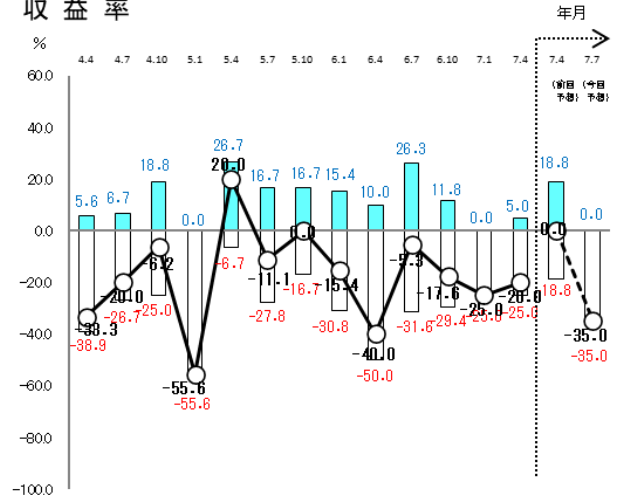
販売価格



資金繰り

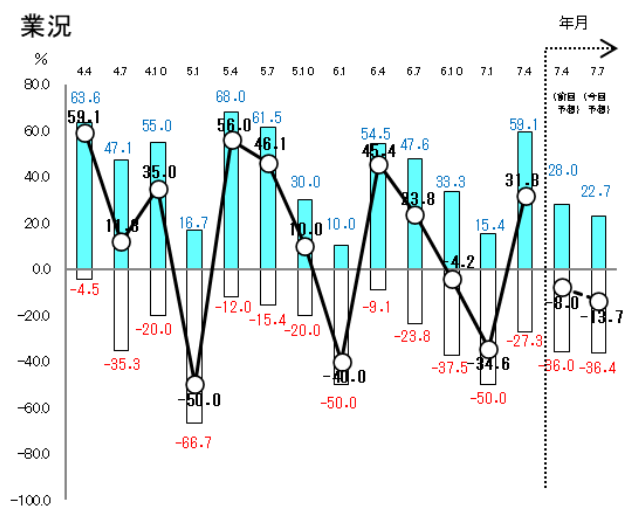


収益率

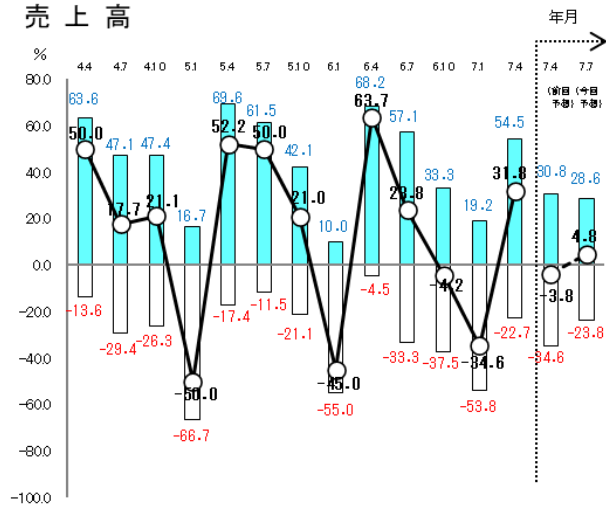


才 飲食業

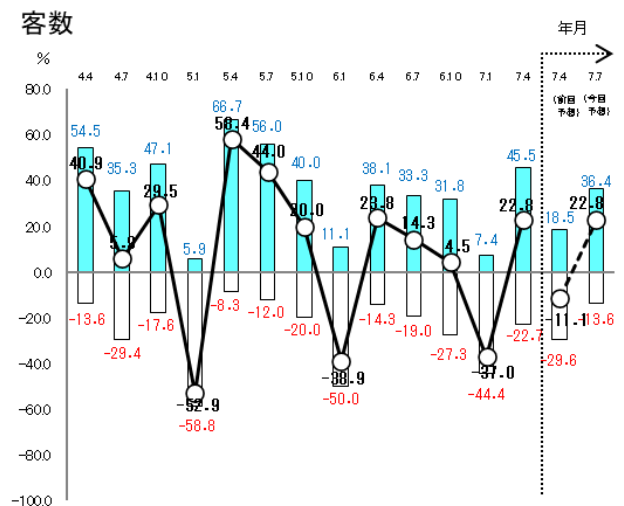
業況



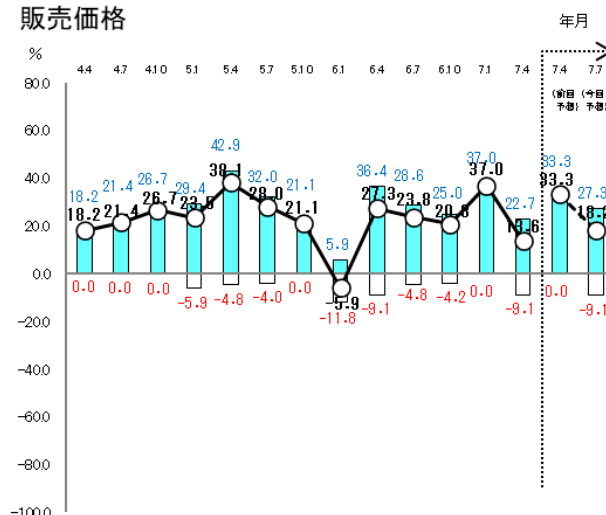
売上高



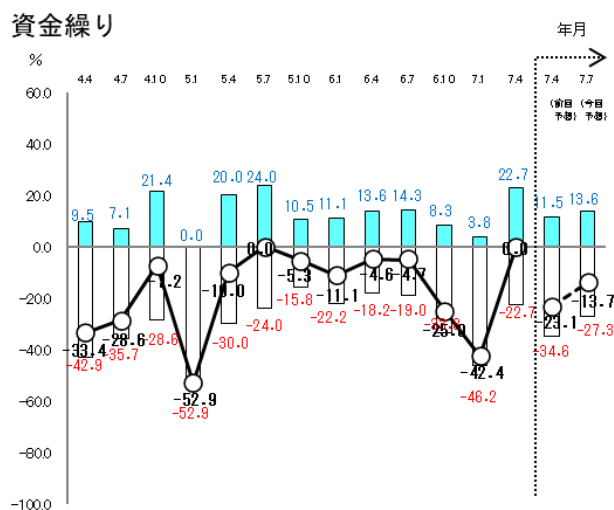
客数



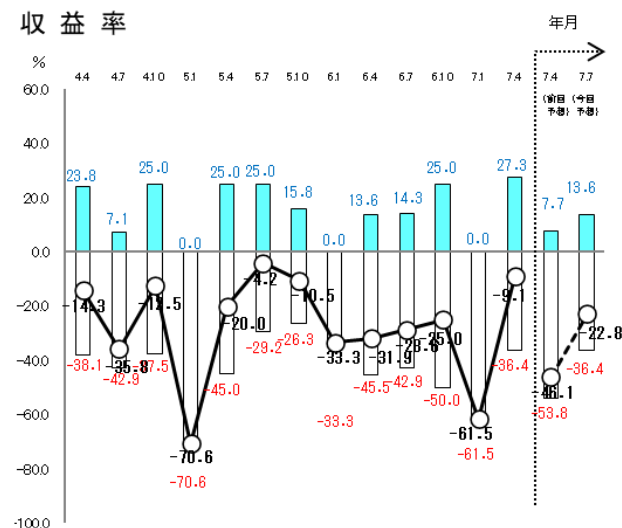
販売価格



資金繰り

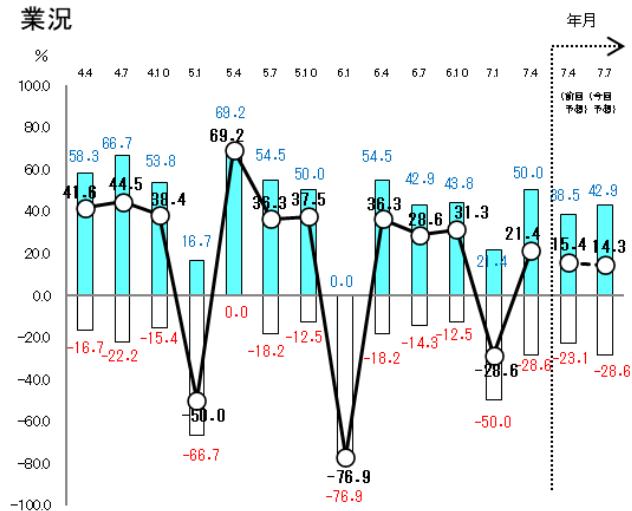


収益率

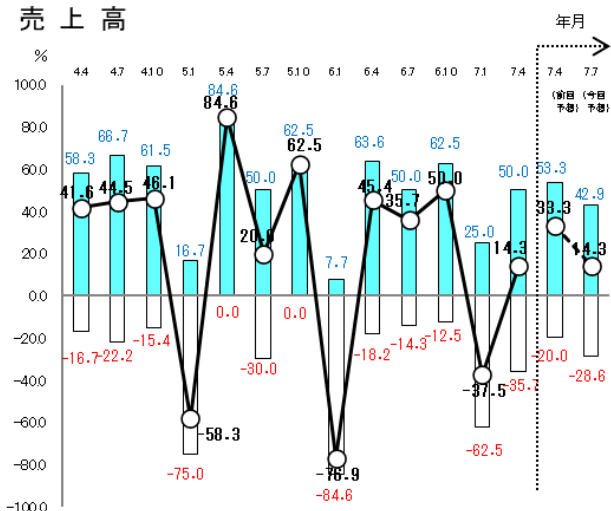


力 宿泊業

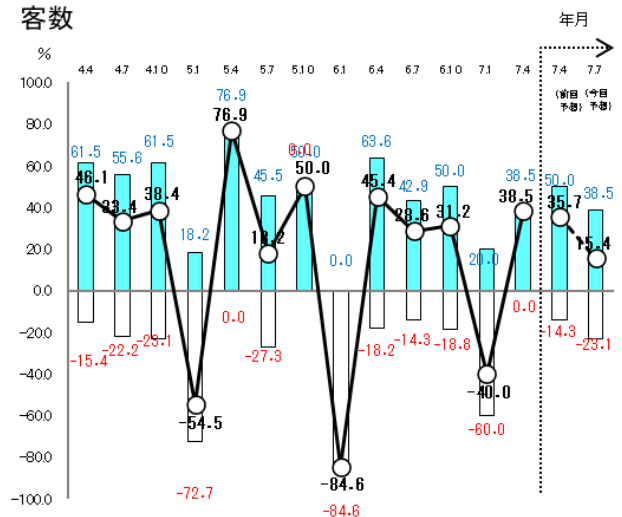
業況



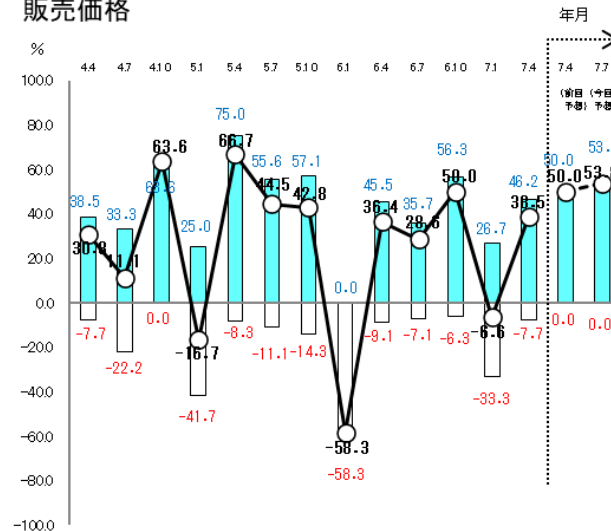
売上高



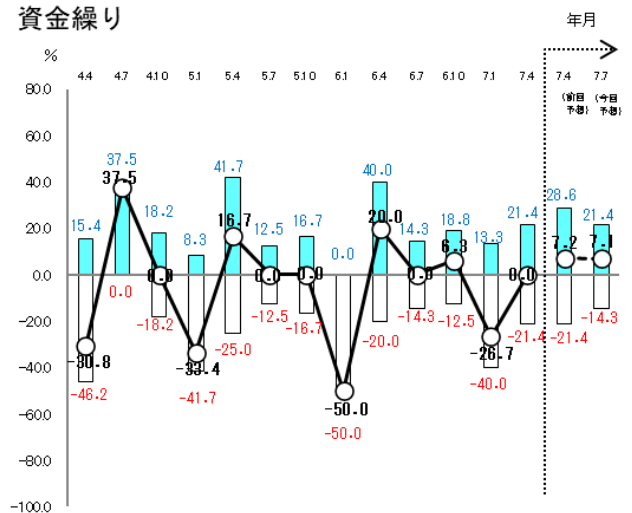
客数



販売価格



資金繰り



収益率

